

INTERCULTURE

関西学院千里国際中等部・高等部 Senri International School of Kwansei Gakuin (SIS) | 関西学院大阪インターナショナルスクール Osaka International School of Kwansei Gakuin (OIS)
〒562-0032大阪府箕面市小野原西4-4-16 | 4-4-16 Onohara-nishi, Minoh-shi, Osaka-fu, 562-0032 JAPAN | TEL 072-727-5050 | FAX 072-727-5055 | URL <http://www.senri.ed.jp>

Sports Day 2015

FALL 2015 No.144

AISA Volleyball, Tennis

英検1級に2名合格 国連英検A級に1名合格

World Champion in the 2015 RoboCup



Sports Day 2015

関西学院千里国際キャンパス Senri and Osaka International Schools of Kwansei Gakuin (SOIS) は、帰国生徒・一般生徒・外国人生徒を対象とする関西学院千里国際中等部・高等部 Senri International School of Kwansei Gakuin (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする関西学院大阪インターナショナルスクール Osaka International School of Kwansei Gakuin (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、国内外のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。

主役は誰？

眞砂和典
SIS校長

私はここ1年ほど本校の特徴や目標として「生徒が中心の教室」とか「生徒主体の学校・教育」という説明をしてきた。これはどのようなことを意味するのだろうか？ 私達の学校は何を目指しているのだろうか。

長崎県の中学校教員が次のような意見を新聞の読者の声欄に投稿していた。

『しつげとは 我慢を教えること。』… 学校は集団で生活するとこころだ。子供たちは教科の学習をするだけでなく、社会のルールを学び、社会性を身につけていく。そのためにわがままはほとんど許されない。…』

私も家庭教育という面では賛成する部分もある。近頃の若者は我慢が足りずにすぐに諦めてしまうと多くの人を感じているので、この意見に同意するのをもっともだろう。しかし、この指導は授業のスタイルにも入り込んできていたのではないかと心配になる。学校全体の活動において生徒は辛抱強く教員の話聞くことばかりが強いられてはいないだろうか。これまでの教育が集団のルールを尊重することに重点を置いてきたために、生徒たちは与えられた枠組みの中で自立を妨げられてきたように思えてならない。主体的に取り組めばもっと深く学べたものを、他律的、一般的な価値観の押しつけの中で浅く、広く薄めてられてきたのではないだろうか。

集団の価値の中で、はみ出さないように、ルールを破らないように振舞うのは、実は考える力を奪っている。「自己責任」というと冷たく突き放したようだが、自分で考えて自ら責任を持って選択するほうが教育的だ。失敗させないようにレールを敷くのではなく、自分の道を切り拓く苦勞が本当の学びに繋がるだろう。失敗した時に、学びと回生のための手を差し伸べていくやりかたも大切だ。

「アクティブラーニング」という言葉がいろいろなところで使われるようになってきた。文部科学省の新学習指導要領の中にも授業の新しい形として取り込まれるようだが、盛りだくさんの学習内容と両立させようとするならば矛盾を感じる。

昨年、文部科学省 教育課程課の方と何度か数学について、IB（国際バカロレア）と指導要領のすり合わせを話し合った。最初は、指導要領のこの項目はIBではどうなるのでしょうか、というような内容だったので少し残念な思いをしていた。私がIBのカリキュラムと指導要領を比べて考えていたのは、「IBは個々の知識を学ぶというよりも大きくなりて概念を大切にするので、日本の指導要領が細かく項目を網羅させようとしているのとは方向性が異なる」ということだ。これまでの文部科学省の指導は教科書や授業時間、網羅すべき項目といった「枠」を大切にしていた。9年前の未履修問題の時にも、突然「枠」が強調されたと感じた人はいたのではないだろうか。このような日本の指導要領の考え方はなかなか変わらないのだろうと諦めかけていた。しかし、この夏に発表された文部科学省の「国際バカロレアの導入を促進するための教育課程の特例措置（PDF:70KB）」（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1352960.htm）の中にあるPDFです。上のリンクを直接開くことも、その下の文科省のリンクから全体を見ていくこともできます。ここがデジタルベースのインターカルチャーの便利さですね。②に「英数理の必修科目及び総合的な学習の時間に

ついては、関連するIB DP科目の履修をもって代えることができる。」とある。数学についての話し合いが実を結んだと思えた。これはIB導入についての措置というよりも、もっと大きな決断が日本の教育改革になされたことを示している、と私は考える。これまでの指導要領には「ゆとり」、「考える力・生きる力」と過去2回の改定の度に知識量だけではないというメッセージは入っていたが、上にも述べたように指導項目が厳然と示され、その重さと大学入試に現場の教員たちは縛られていた。IBの英語や数学、理科を指導要領に置き代えてよい、というのはこれまでになかった画期的な動きだ。

更に、「ゆとり」、「考える力・生きる力」の延長線上に次の改定指導要領では「アクティブラーニング」が入ってくることになる。このことを分かりやすくまとめたものに文部科学省の「教育課程企画特別部会 論点整理」がある。この文章は時間のあるときに是非読んでもらいたい。日本の教育が大きく変わろうとしている息吹が強く感じられる。私達SOISが25年間実践してきたことが、ここに流れ込んで大きなうねりになっていると思わずにはいられない。「アクティブラーニング」という言葉では分かりにくいのが、授業をはじめとする学校の教育方法が変わっていく必要があるという意識の高さが真摯に伝わってくる。

先日参加した研修で「コンピュータを使わない教員は生徒の前で失敗することを恐れて、益々使わなくなる。」と言っていた。確かに目まぐるしく進歩する新しい情報機器は教員より若い生徒のほうが慣れ親しんでいるので、教員が生徒をリードすることはこれから更に減っていくだろう。そんな時にこそ、生徒とともに学ぶという姿勢を持った教員がとても貴重になる。コンピュータという狭い話に限らず、この姿勢こそがこれからの教育で教員に要求される資質であろう。「生徒が学びに当事者意識を持つ」ためには教員と生徒が近い間柄であることが大切だ。生徒の意見に聞く耳を持つ、柔軟な発想のできる教員がこれからの学校を担ってほしい。これがアクティブラーニングの前提条件になり、「生徒が中心の教室」や「生徒主体の学校・教育」が成立する。

OISのクラロヴェック校長も”student-centered”について書いている。申し合わせたわけでもないのに、さすが、”Two Schools Together”であると嬉しくなった。



Why is Accreditation Important?

Bill Kralovec

OIS Head

You may have noticed the logo above on our school's website and in our documentation. This is our seal of accreditation. The process of accreditation is like an assurance of quality. A simple explanation is inspectors come to the school and validate our teaching and learning. A team of educators spends up to a week at our school, interviewing parents, students and teachers, observes classes, inspects documentation of student learning, among other things to issue a certification of competency or authority for our educational program. This is similar to the process for industries or organizations that the International Organization for Standardization (ISO) conducts.



The basic reason schools seek accreditation is to help the students when they leave our school. With accreditation, the report cards, high school transcripts and diplomas are accepted by K-12 schools and universities throughout the world. Without accreditation, universities or K-12 schools may not accept credits or diplomas earned in a non-accredited school. Most established schools are accredited, but many new, for profit and single owner schools in Asia struggle with accreditation.

There are six large regional accrediting agencies in the USA. They were started by secondary school educators in the late 19th and early 20th century to assist universities in evaluating students. The non-profit, academic organizations have expanded to accredit elementary schools and universities in addition to the original intent of middle and high schools. Besides accrediting schools in America, the agencies also inspect international schools.

The Accrediting Commission for Schools, Western Association of Schools and Colleges (ACS WASC) accredits over 4,500 schools, mostly in California and Hawaii. They also accredit over 242 schools on the East Asia Regional Council of Schools (EARCOS), including OIS. The accreditation cycle is 5 years long culminating in a visit of a team of expert educators. We are anticipating our next visit in the second part of the 2017-2018 school year. We will begin preparing for the visit with a preliminary visit from an ACS WASC expert in the spring of this school year.

We view the visit as an opportunity to improve. The team



of visiting educators is a chance to get feedback and advice from other schools. It also forces the entire school community, students, teachers, faculty, staff and parents, to think critically about student learning and what are the priorities to focus on for our school community. The visiting team is mainly looking for evidence of critical analysis of student learning and quality of instruction. They also evaluate areas like the safety of the school campus, the social and emotional well-being of our students, the allocation of resources and a healthy school governance structure and practice, among others. It is vital for earning accreditation for all stakeholders in the school to contribute to this improvement process.

Our visit is a bit more complicated because it is combined with the International Baccalaureate (IB) authorization visit. The IB authorizes OIS to deliver the Primary Years, Middle Years, and Diploma programmes. It is a similar process to ACS WASC.

The visit in the winter of 2018 will be our school's fifth accreditation cycle. Associate Executive Director, and a visiting team member from our last visit in February of 2013 said in a recent meeting I attended, "WASC stands for We Are Student Centered!" All of us at OIS are student-centered and we look forward to working with ACS WASC. The quality assurance helps our students learn more and for us to be a better school. A new school wide action plan and strategic plan will come out this process. We are proud to be an ACS WASC accredited member school.

KWANSEI GAKUIN

Two Schools Together
Senri International School (SIS)
Osaka International School (OIS)
of KWANSEI GAKUIN

The 5 Respects

Respect for Self

Respect for Others

Respect for Learning

Respect for the Environment

Respect for Leadership / Authority

5つのリスペクト

自分を大切に

他の人を大切に

学習を大切に

環境を大切に

リーダーシップを大切に

Two Schools Together

Sports Day 2015



Theme: THE UNIVERSE



去年とうってかわって、今年はお天気に恵まれた運動会 Sports Day。その日10月10日は晴れの特異日といわれていますが、調べてみるとそうでもないらしい。でもまあ好天でよかった～！ テーマを”The Universe (宇宙)”と銘打ちポールにはチームカラーの旗がはためいていましたが、こんな風に旗を揚げたのは初めてのこらしいです。皆さんはこの壮大なテーマにあったパフォーマンスができたのでしょうか。さて結果のほうはHSは辛うじて12年の勝利、MSは赤チームの勝利で終わりました。何はともあれ、生徒たちの精一杯頑張る姿がとても清々しかったです。(K)

Two Schools Together

High School Girls Volleyball AISA Tournament

Amane Asai 浅井天音
SIS 11年

今年10月16、17日、ホーム(SOIS)でHigh School Girls Volleyball AISA tournamentが行われました。今年は私たちSabers女子の要である12年生たちが参加できる最後のシーズンで、今までいろいろとお世話になったということも受けどうしても共にAISA優勝を果たしたいと思っていました。シーズンが始まってみると、朝練に一年中参加していたことやプレシーズン中の練習などもあって、皆前年と比べ驚くほど上手になっていました。個々のスキルも上がってチームワークも抜群にありましたが、集中力が欠けているということが一番の欠点だったと思います。皆が集中していた時は強い相手とも互角に戦えましたが、相手を見くびっていたり1セット先取して疲れたりすると集中力のなさが垣間見えていました。練習や普段の生活の中でも集中力と体力をどうかしようと思いがけ、AISAでは声かけなどをして集中力をぐんと高めることができました。今年は去年怪我で出られなかった茜も復帰していたり、9年生のゆりあがVarsityに入ったことでAISAも本当に優勝できるのではないかという希望が見えていましたが、茜がWJAA tournamentで今度は逆足を怪我してしまい、正直焦りました。また、JVでも第一セッターであるかほが練習試合の際に足を痛め、トーナメントに出ることができなくなってとても戸惑いました。最後のAISAではおなとちながJVからVarsityに上がることになり、JVは急なメンバーチェンジにまたも戸惑うことになりましたが、AISAの最終戦であった5,6位決定戦では見事に勝つことができました。またVarsityは特に決勝戦で皆緊張していましたが茜をはじめとするチーム全員の力強い応援によりストレートでKISに打ち勝つことができました。Sabers女子にとっては3年ぶりの優勝で、私たち11生以下は初めて経験する勝利でした。去年のシーズンが終わったときから懇願していたので、最後の25点目をとった時は皆で感極まって号泣してしまいました。あんなに嬉しい思いをできたのは、ホームでのAISAをサポートしてくださったハイマー先生、三橋先生、また長いシーズン中コーチを務めてくださった平井先生、SSCの皆さん、また応援に来てくれた人たちや声をかけてくれた全ての方々のおかげです。また、暑期中、放課後の2時間ですら厳しいのに夏休みまで練習に来て走り回ってくれたマネージャーであるなお、かなえ、すおのには感謝してもきれませんし、到底真似できません。12年生の最後のAISAをこのような形で終わったことは本当に嬉しいですし、受験で忙しいところ練習に毎回参加してくれた12年生はとても尊敬しています。後輩たちにも今回のシーズンをきっかけに来年からも頑張ってもらいたいです。

On October 16 and 17, we had a High School Girls Volleyball AISA tournament in SOIS. This season was the last volleyball season for the seniors, whom we have admired since we were in middle school, so we genuinely wanted to achieve the goal of winning the championship award. As we started the volleyball season in September, we could clearly see the difference from last year. Because of the morning practice and the pre-season, we were all so much better than we used to be last year. However, our weakest point was that we couldn't concentrate on



the game enough. When we did concentrate, we could win the game, but when we were too tired to concentrate on the game, we couldn't do our best. To get over with this, we tried hard to concentrate not only in the volleyball practice but also during the class time. As a result, we had great powers of concentration at the AISA tournament.

This year, Akane, who had been injured for a year and was finally back to play, got injured again, and Kaho, who was the setter in Junior Varsity, also got injured at the game vs KG, and we were shocked and didn't know what to do. In spite of that, JV won the last game at the AISA tournament, which was to win the 5th place. And the Varsity members were very nervous in the finals, but everyone's cheering made us win the championship in straight sets. It was the first time for the players who were under eleventh grade to experience the victory, so we cried for joy. We could not have been so happy without Mr. Heimer and Mr. Mitsuhashi, who set up the whole tournament schedule, Ms. Hirai, Sports School Council, and all who cheered for us. We cannot thank them enough. Also, we would like to thank the managers, Nao, Kanae, and Suono for coming to the practice even in the summer vacation, and supporting the players all the time. We are very happy and proud to end the last season for the twelfth graders like this.



Two Schools Together

High School Boys Volleyball

岸 大樹

SIS 12年

手をあげるだけでレギュラーメンバーに選ばれる弱小バレーボール部だった9年生の頃、今年のAISAが四連覇をかけた戦いになるなど僕も含め、誰も想像していなかった。1年目のWJAAは6チーム中6位、JVトーナメントは4チーム中4位とボロボロな状態で、韓国で行われたAISAに挑んだ。自分たちの中ではできるところまで頑張ろうっていう心構えで臨んだ結果、優勝という最高の結果でシーズンを終えることができた。2年目にはものすごい身体能力を持ったOISのやつらがMSから上がってきて、また、ずっとサッカーをやってきたやつが入部し、1年目と比較できないほど強くなった。前年度最下位だったWJAAでは準優勝、ホームでのAISAでは危なげなく優勝を果たし、AISA二連覇を達成することができた。3年目でも、MSから上がってきたチャーミングな中国人とガラの悪いバレー経験者が加わり、新たに色々な攻撃を加えることができた。しかし、自分たちのレベルが上がっていくのと同時に相手のレベルも格段に上がっていき、WJAAでは3位に終わった。AISAでは2年目の決勝戦で焦ることなく勝てたKorea International Schoolが、シーズン無敗のまま、自信満々にAISAの決勝戦に進んできた。トーナメント中に怪我をしてしまい、勝利に貢献することができなかったが、僕たちはAISA三連覇を達成することができた。そして、今シーズンは世界一の男、アメフトのすごいやつ、プレイ中何を考えているかわからないやつがVarsityに選ばれ、それに加えて身長の高いサッカー少年と小さい野球少年で挑んだ。去年始めた攻撃のレベルアップをしつつ、速いバレーを意識して練習を積み重ねていった。その結果、WJAAで初めて優勝するこ



とができた。またAISAでは、AISAに加盟する学校のコーチ陣から一番速く、綺麗なバレーをしていたと称賛してもらった。しかし、決勝戦ではMarist Brothers International Schoolにフルセットの末、負けてしまった。

今年のプレイは4年間の中でレベル、完成度、共に一番高かった。シーズン中にチームで過ごすことが多く、バレーについて話し合うことも今まで以上に多かった。練習も重ねていたにもかかわらず負けてしまったのは正直悔しい。でも、負けたからといって、AISA三連覇という事実は凄いことで、誇りに思っている。今年は惜しくも負けてしまったが、後輩たちは来年さらにパワーアップしたバレーボールをしてくれるに違いない。来シーズンのメンバーはあまり変わらないと思うので、今年の悔しさを忘れずに、またAISA連覇に挑戦していつてもらいたい。三ツ橋先生、間島先生、バレー部のみんな、今まで本当にありがとうございました。

WJAA and AISA

Senri and Osaka International Schools of Kwansai Gakuin = **SOIS** belongs to two competitive activities leagues, one domestic and one international, each with season-ending championship tournaments.

The domestic league is called the Western Japan Activities Association (**WJAA**) and consists of several schools:

- Canadian Academy = **CA** (Kobe)
- EJ King High School = **EJK** (Sasebo)
- Fukuoka International School
- Hiroshima International School
- International Christian Academy Nagoya
- Kyoto International University Academy = **KIUA**
- Marist Brothers International School (Kobe)
- MC Perry High School = **MCP** (Iwakuni)

- Nagoya International School
- Senri and Osaka International Schools of Kwansai Gakuin
- Sons of Light School (Takarazuka)

Our international league is called the Association of International Schools in Asia (**AISA**), which consists of four schools:

- Korea International School = **KIS**
- Senri and Osaka International Schools of Kwansai Gakuin
- Seoul International School = **SIS**
- Yokohama International School = **YIS**

Through **AISA**, **SOIS** students participate in many activities: basketball, volleyball, soccer, swimming, tennis, band, orchestra, choir, student council, and mathematics. Season-ending events are held each year at a league member school on a rotational basis.

Two Schools Together

Girls Doubles Placed 1st and 2nd at AISA Tennis

Derek Entwistle, Shigemi Kano

Tennis Coaches

Tennis season has wrapped up for another year! Congratulations to all players. Tennis season got off to a rather slow start with many practices cancelled due to poor weather but it finally got into full swing it was all systems go with 40 students signed up and attending. This made practice a challenge logistically



with only 2 - 3 courts available and a wide range of experience and ability but all students are to be commended for their patience and dedication.

Results for the season were rather mixed with our teams winning many matches but frustratingly losing other “winnable” matches. Ahh! Experience and match practice is what is needed!

Highlights of the season included the victory of the mixed doubles (Yuya Kitano and Risa



Asaki) and girls singles (Haruka Ose) at the WJAA tournament. Also, at AISA in Seoul, the girls doubles pairs (Chisato Komatsu and Haruna Kajiki and Nanako Ogura and Asaki Okamura) coming in 1st and 2nd.

Both the boys and girls teams all battled valiantly and are to be commended for their attitude, tennis play and behavior.

Coaches Entwistle and Kano look forward to the 2016 season. Go Sabers!



Sabers Sign Up セイバーズ・サインアップ

sabers.senri.ed.jp → Forms <http://sabers.senri.ed.jp/student-forms.html>

一年に一回、シーズンが始まる前にセイバーズ・チームに参加することを希望する生徒は、セイバーズ・アスレティクス・ウェブサイトからオンラインでサインアップをしなければいけません。サインアップをしていない生徒は練習に参加できません。パスポートのコピーがなければ、練習ができません。練習がなければプレーができません。プレーできなければ楽しくありません。

Once a year, prior to the start of a season, all students wanting to join a Sabers team must sign up online on the Sabers athletics website. No sign up, no practice. No passport, no practice. No practice, no play. No play, no fun.

AISA EVENTS 2015-16

<http://sabers.senri.ed.jp/aisa-calendars.html>

- ・2015年10月15日-18日 女子バレーボール@SOIS, 男子バレーボール@YIS横浜, テニス@KISソウル
- ・2015年01月28日-31日 女子バスケットボール@SIS, 男子バスケットボール@KISソウル, 数学/リーダーシップ @BIFS (プサン)
- ・2015年04月14日-17日 女子サッカー@SOIS, 男子サッカー@YIS, 水泳@SISソウル



Two Schools Together

13 People Placed in Suita Triathlon/Aquathlon

Hiroshi Baba, Tara Cheney
Triathlon/ Running Coach

■7/20 明石アクアスロンで5名完走

Akashi Aquathlon was held at Okura Kaigan in Akashi city. Gr.7-9 : Swim 200m + Run 3km

<finishers> Miki Fujito (SIS9), Yuka Nakayama (SIS9), Taiga Ikeda (SIS7), Kazuma Watanabe (SIS7), Natsuki Hori (SIS7)

■9/6 吹田トライアスロンで13名入賞

Suita City Mayor's Cup Triathlon/Aquathlon was held at Senri Kita Koen. In

total 33 people participated and 13 people placed.

<Placed>

Triathlon Gr7-9: Swim500m Bike10km Run2.8km, Gr10&Up: S750m B20km R5.6km

Gr7-9 Girls: 2nd Lisa Nin (SIS7), 3rd Juria Torieda (SIS8),

Gr7-9 Boys: 3rd Masashi Miyawaki (SIS9), Gr10-Age39

Women: 2nd May Murakami-Smith (SIS10)

Aquathlon Swim500mRun2.8km

Gr7-9 Girls: 1st Yuka Nakayama (SIS9), 2nd Maki Mukaida (SIS8),

3rd Uchikata Aoi (SIS7), Gr7-9 Boys: 2nd Kazuma Watanabe (SIS7),

3rd Yutaro Tanaka (SIS9), Gr10-Age39 Men:

2nd Yuto Baba (OIS10), Gr10-Age39 Women: 1st Marika Fujisaki (Graduate),

Age40&Up Women: 2nd Tara Cheney (Faculty),

Swim Open1500m: 3rd Akihiro Takebe (SIS8)

■10/18 能勢高原マラソンで7名入賞

Nose Kogen Marathon was held at Nose-cho in northern part of Osaka. In total 18 people participated and 7 students placed.

<Placed> Women 10km: 4th May Murakami-Smith (SIS10),



Men 5km: 3rd Yuto Baba (OIS10), Women 5km: 4th Riho Shimomura (SIS10), Gr7-9 Girls 3km: 1st Mai Nanjo (SIS7), 2nd Juria Torieda (SIS8), 3rd Yuka Nakayama (SIS9), 6th Karin Iwaki (SIS8)

■11/1 カーフマンジャパングアスロンで1名入賞

3 students and 1 graduate finished Calfman Japan Duathlon in Greenpia Miki, Hyogo.
<finishers> Gr.7-9: Run 2km Bike 10km Run 2km: Girls: 3rd Yuka Nakayama (SIS9), 4th Miki Fujito (SIS9), 5th



Julia Torieda (SIS8), Elite Run 5km Bike 30km Run 5km: Yu Ozawa (Graduate). And we got the group award as well.

■11/1吹田市長杯陸上競技大会に22名参加

Suita Track and Field Meet in Suita. Total 22 people participated.

SABERS WEBSITE セイバーズのウェブサイト

Peter Heimer

SOIS activities director

チームに関するニュースやスケジュール、試合結果、オンライン・サインアップ・フォーム、承諾書、ハンドブック、ホームステイについての説明、写真、ビデオ、セイバーズテレビなど、セイバーズのスポーツに関する全ての情報は、セイバーズ・アスレティクス・ウェブサイト (sabers.senri.ed.jp) で得ることができます。ブックマークして、アクセスしてください。

<http://sabers.senri.ed.jp/>

Nearly all information about Sabers sports – including team news, schedules, results, online sign up and permission forms, handbooks, homestay explanations, photos, videos, Sabers TV shows – can be found on the Sabers athletics website at sabers.senri.ed.jp. Please bookmark this site and visit it often.

Two Schools Together

SOIS HS Spring Concert

June 9, 2015



Bangkok International String Festival

Vernon Villapando
Strings Director

Ten string students, accompanied by SOIS strings director, Vernon Villapando and OIS teacher, Rie Matsuda, participated in the 2015 Bangkok International Strings Festival at International School Bangkok (ISB) from September 23 – 26, 2015. They joined four other international schools that included the Bangkok Patana School, Thai-Chinese International School, International Community School and International School Bangkok. This is the second year that SOIS joined in this annual festival and our students were outstanding in every section of the orchestra as last year. This year's guest conductor is Mr. Kirt Mosier who is a well-known composer and conductor.

You can view the final concert through this link:



<https://drive.google.com/file/d/0B5AInNB1a8gsODBzc0RzaW5NOWM/view?usp=sharing>
(from Educator, 10 October 2015)

Two Schools Together

SOIS Hosts University Admissions Officers

Melissa Lamug
School Counselor

It has been a very busy month of college counseling activities as we hosted several visits from admissions/recruitment officers of top universities all over the world. We had very encouraging turn outs from both SIS and OIS students this year, thanks to the SOIS HS homeroom teachers' support in announcing all these college visits to the students and encouraging them come, along with Stephen Frater's advertisements in the electronic board by the library.

A good number of students came to listen in on the presentations, and they asked very good questions about what the universities were like, and what the application procedures and admissions requirements are. We also had students from grades 9 through 12 coming for these events, showing that students are really thinking ahead in planning their post high school options! We also had some parents getting involved and joining the presentations.

Some of the universities that came this September were: Boston U, Ohio State U, Loyola Marymount from the US, Un-



derwood College (part of Korea's Yonsei University), Ecole Hoteliere de Lausanne, IE Madrid, NYU Abu Dhabi, Shanghai, New York, and ICU from Tokyo. (from Educator, 10 October 2015)

IBDP Visual Arts Field Trip to Kyoto

Esperanza Garces
Visual Arts Teacher



The Grade 11 and 12 IBDP Visual Arts students went on a trip to view the exhibitions in the Kyoto Municipal Museum last September 10. They got to see the Louvre collection of genre and still life paintings, most of which were from the Baroque period. Most of them were fascinated with the works of the Surrealist artist Rene Magritte in the second exhibition. A number of them said that they appreciate his contrasting use of everyday objects and the interesting concepts behind the pieces. (from Educator, 10 October 2015)

Nao's Eye

Art Exhibition



Two Schools Together

英検1級に2名合格 国連英検A級に1名合格

Rodney Ray

SIS English



The following students have reported recent results on the Society for Testing English Proficiency's (STEP) Test in Practical English Proficiency (Eiken). Many people passed the exam this time; special congratulations to Minami Izumikawa and Justin Loew, who passed the highest level of the test, and to OIS 5th grader Ayana Nakamae, who passed the Pre-1 level.

In addition, earlier this year, SIS 12th grader Haru Masuda passed Class A (the second-highest level) of the United Nations Association's Test of English (国際連合公用語英語検定試験).

Good job everybody! Remember, if you take the Eiken, be sure to report your results to Iihara-san in the Business Office.

SIS 12	Izumikawa, Minami	1級 (Level 1)
SIS 12	Loew, Justin	1級 (Level 1)
SIS 08	Kusanagi, Yuki	準1級 (Level P1)
SIS 12	Inoue, Nagisa	準1級 (Level P1)

SIS 12	Kagao, Yuka	準1級 (Level P1)
SIS 12	Ugai, Fuka	準1級 (Level P1)
SIS 12	Kajimoto, Akari	準1級 (Level P1)
SIS 12	Akashi, Kai	準1級 (Level P1)
SIS 12	Otsuki, Sakiko	準1級 (Level P1)
SIS 12	Tanaka, Rika	準1級 (Level P1)
SIS 12	Homma, Takashi	準1級 (Level P1)
OIS 05	Nakamae, Ayana	準1級 (Level P1)
SIS 09	Okabe, Fumiya	2級 (Level 2)
SIS 10	Wake, Ayaka	2級 (Level 2)
SIS 10	Koshimuta, Kazuki	2級 (Level 2)
SIS 11	Kurosaki, Rio	2級 (Level 2)
SIS 11	Takasu, Risa	2級 (Level 2)
SIS 11	Suenaga, Karin	2級 (Level 2)
SIS 11	Tai, Manami	2級 (Level 2)
SIS 11	Hamaguchi, Hina	2級 (Level 2)
SIS 12	Kim, Kana	2級 (Level 2)
SIS 12	Maeizumi, Yuki	2級 (Level 2)
SIS 12	Inoue, Nozomi	2級 (Level 2)
SIS 12	Inui, Mayuko	2級 (Level 2)
SIS 12	Kagitani, Kai	2級 (Level 2)
SIS 12	Kitagawa, Taku	2級 (Level 2)
SIS 12	Kunii Wigdor, Maya	2級 (Level 2)
SIS 12	Masaki, Ayaka	2級 (Level 2)
SIS 12	Nakahara, Miki	2級 (Level 2)
SIS 12	Okawa, Misuzu	2級 (Level 2)
SIS 12	Tani, Yuka	2級 (Level 2)

OIS KBに点字を教えに行きました

青山比呂乃
図書館

10月1日木曜と7日水曜の5時間目にアンスケを調整して、点字クラブでOISKBに点字を教えに行きました。OIS小学部が取り入れているPYPというプログラムに沿った活動で「5senses(五感)」を日本語の授業で体験学習するお手伝いをするためです。

点字クラブは、1991年9月から続いている中高生のクラブで、毎週水曜の放課後に、MMラボで活動しています。普段は日本語の点字の書き方を一通り練習した後、点字絵本作りに取り組んできましたが、今年の12年は普通の短編小説の点訳に取り組んでいます。最初はやり直しも多く、なかなか点字図書館の蔵書にもらえるような作品はできないのですが、楽しくがんばっています。



OIBKBへは、2007年から毎年OIS日本語科の先生の依頼を受けて訪問しています。今年はまずは時間の都合が合った12年の

出田、8年ヴァレンティニ、伊地知、前田、平川の5名の部員、顧問の私とで行きました。

1回目の水曜は、日本語で点字の紹介をし、小学館から出版さ



れている点字雑誌を目隠してさわって絵をみるのを5歳クラスKBの14名の生徒に体験してもらいました。最初はお互いに戸惑っていたのが、ちょっと慣れると今度は意図したのと違うことを始めたりちょっと苦戦しましたが、KBの生徒はみんな興味津々で、さわる迷路も面白かったようです。

2回目の水曜は、出田の代わりに7年の加藤が加わり、中学生5名と青山とで「自分で点字を打ってみよう」という指導。KB生徒がなんとか、自分の名前を書いてみる事ができました。

中高校生にとって普段話す機会もない幼稚園の生徒に教えるのは、なかなか大変でしたが、つぎつぎに話しかけてきたり、とても楽しんでた姿がうれしかったです。

Two Schools Together

東北ボランティア Tohoku Volunteer



大西 杏奈

SIS 12年

私たち生徒37名、教員3名は東日本大震災の復興支援のために、6月28日から7月1日まで宮城県名取市閑上地区にボランティアに行った。それぞれが思っていた震災から4年たった被災地と私たちが実際に見た閑上の姿は大きく違って、想像を超えていた。瓦礫などはなかったが、新しい建物はなく、震災から時間が止まっているようにみえた。

ボランティア活動の3日間で慰霊碑の周りなどの草むしり、義援金で作られた施設の掃除や、被災された方の家跡に花壇を作った。実際に震災を体験した語り部さん(地元の人)に当時の話をたくさん聞き、映像も見て、実際に家族を失った語り部さんや24時間以上雪の降る中、屋根の上に避難していた語り部さんの話を聞き、それぞれが感じるものは大きかった。その中で共通して感じたことは、「それぞれの命を大切に、自分で守ること。」ということだ。それは閑上にあった、「閑上には津波が来ない。」という思い込みがたくさんの犠牲者を出したという事の反省から感じたことだ。関西に住む私たちが近い将来起こる大きな地震や津波に備えて、閑上の言葉で『てんでんこ』を守らなければいけない。『てんでんこ』とは、「他人のことを考えるより先に自分の安全を確保する。」というものだ。私たちがこれから出来ることは、閑上から学んだ自分の命を大切にすることを受け継ぎ、人に伝えていくことだ。募金やボランティアなどの支援も続けていかないといけない。

関西では原発のことが多く報道されて、沿岸部のことはあまり報道されていないこともあり、沿岸部の復興は完成していると思込んでいる人も多いただろう。だが私たちが実際に沿岸部で見てきた津波の被害は大きなもので復興もまだまだ続けていかなければいけないというものだった。そのことを一人でも多くの人に伝え、それぞれが、それぞれの場所で行える支援をしていかないといけないと思う。決して『2011年3月11日』のことは忘れてはいけない。



森岡 晶

SIS 11年

Many people have said that doing volunteer work would be one of the best ways to open your heart towards new experiences,

I agree. From the 28th of June to the 1st of July, we, SOIS students stayed at Tohoku. During the 4 days we volunteered at Yuriage where the tsunami hit up to 8.4m.

After arriving at the airport in Sendai, we were surprised to see no buildings around. We used the first day for sight-seeing around Sendai and visited Aoba castle and Zuihoden.

After looking around the city, we listened to personal experiences from Mrs. Tanno at Yuriage, where we volunteered for three days. She took us to Yuriage middle school where she evacuated. On the way back, she told us that living longer than our own parents is the greatest thing that you can ever do in life. In the afternoon, we divided into two groups. One pulling weeds outside, while the other made posters for the Maplekan. The following day, we stayed out for seven hours as some groups cleaned around the monument while others worked on making a flower patch. On the last day despite the rain, some went outside to pick weeds as the others stayed indoors to clean the Maplekan.

From this camp, we not only helped but also gained knowledge from the people of Yuriage. They emphasized the importance of protecting yourself, which is one of the 5 respects in our school. Here they call it the "Tendenko". We also learned that there was a saying that a tsunami would never hit Yuriage. From this false statement many people lost their lives. We were touched how the people in Yuriage were strong and cheerful people. Out of the many things we learned throughout the 4 days, the most important was never to forget about the disaster that hit Yuriage and the Tohoku region on March 11th, 2011 14:46. As Anne Frank said, "The weak fall, but the strong will remain and never go under", by experiencing the tsunami and losing the most important people/things, even though they become weak with no hope left, they gain knowledge and realize the importance of life which leads them to become a stronger person. Not only physically but mentally we have learnt a lot and together as a group of both SIS and OIS joint together, we definitely came to an understanding. We would never forget about this wonderful experience.

Two Schools Together

Grade 7 臨海実習

David Haske, 荻原さち
SOIS Science

On Monday, September 28th, OIS and SIS 7th graders went on a science and art excursion to Awaji Island. During the science portion of the field trip, students were given a brief introduction by researchers from The Kobe University Research Center for Inland Seas. Students were introduced to the tidal pools that they would be exploring and informed on the different types of biodiversity they could find. The student scientists spent the next couple of hours in the tidal pools collecting and identifying shellfish, crabs, and seaweed. It was a hot and sunny day that was both informative and fun for all. The grade 7 art classes experimented with how paints and pigments may have been made in the early part of the Stone Age. Students sought out minerals that could be ground into a powder and added it to animal fat in order to create paint. Through this process of discovery they learned how difficult it must have been for Paleolithic people to produce artwork. Another group of students looked for rocks in the shape of animals, and attempted to carve those rocks with tools they could find in the area. Again, students came to appreciate how difficult art was 30,000 years ago. It was our goal to prove to the students that such a monumental effort must have been very important in our lives, and our human, social development. (from Educator, 10 October 2015)

今年のG7理科&美術の臨海校外学習は9月28日(月)に淡路島の岩屋で行いました。数日前から台風が近付き、天候が心配されましたが当日は晴天に恵まれました。気温も高くなり過ぎず、適度な潮風はととても心地良く感じました。この行事は理科と美術

の共同学習なので、理科では磯で生物観察を、美術は浜で岩石や貝殻などを使った絵の具作りを行いました。当日はスペシャルゲストとして神戸大学の川井



先生、鈴木先生、羽生田先生、牛原先生をお招きし、潮の満ち引きから磯の生物の生態についてなど、様々なご教授をいただきました。7年生は最初、フナムシを見て「ゴキブリがいる〜！」と悲鳴を上げていましたが、すぐに慣れました。水中メガネで海藻やカニやエビなどの岩場に潜む生物を見つけるのはとても楽しかったようで、あちらこちらで歓声が上がりました。

ヤドカリやフナムシを捕まえたり、ヒザラガイなどの一枚貝をヘラで剥がしたりと観察よりも捕獲が中心になっている人もいましたが、こんなに「大きなヒザラガイが取れた！」と見せにきてくれたり、中には「この虫は何ですか？」と神戸大の先生方に質問に行く積極的な人も。数名の負傷者(擦り傷)が出ましたが、大きな怪我もなく無事に校外学習を終えることができました。理科、美術の



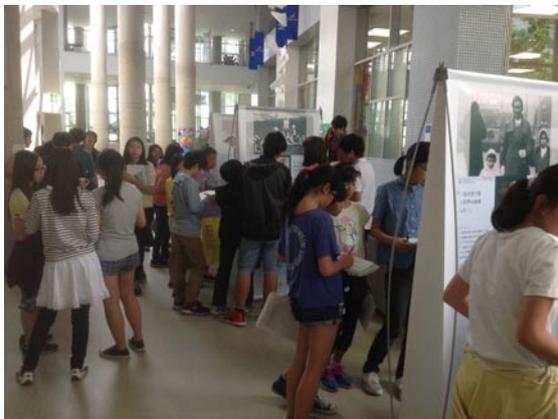
プログラムともSIS/OIS、SISはクラスもミックスして行いました。SOISが同じ学年を互によく知り、仲良くなれるきっかけとなってくれればと思います。

アンネ・フランク パネル展

井藤真由美
SIS教頭

春学期中の4月30日から5月11日に、玄関、二階ギャラリーエリアにてアンネフランクパネル展を実施しました。

これは「Anne Frank Meet and Learn」が、オランダのアンネ・フランクハウスの協力により実施しているもので、34枚のパネルと、各種の書物やポスターによって、当時の政界情勢と、アンネフランク一家や周りの人々が迎えた運命の真実を伝えます。日本中の多



くの会場で巡回開催されています。今年初めて参加し、SISとOISの多くの授業での取り組みができました。その中で春学期に開講されていた高等部英語授業「シンドラーズリスト」(担当Ms Udy)での感想がホームページにも紹介されています。

<http://gcpej.jimdo.com/link/annefrank/2015album/>

「私の望みは周りのみんなに役立ち、喜びを与えること。死んでからもなお生き続けること。いつの日かジャーナリストか作家になれるでしょうか。ぜひそうになりたい。なぜなら書くことによって新たにすべてを把握しなおすことができるからです。私の理念、私の理想、私の夢ことごとくを。」(アンネの日記より)

Two Schools Together

Life is Tech!

iPhoneアプリ & 2Dゲーム & メディアアート体験会開催

合志智子
SIS情報科

2015年9月26日にSIS_ETT (Educational Technology Team)が企画した「iPhoneアプリ&2Dゲーム&メディアアート」セミナーを千里国際キャンパスで開催しました。このセミナーは当キャンパスにあるSISとOISから参加生徒を募集し、Life is Tech! (ライフイズテック)に指導をお願いして実現しました。Life is Tech! は中学生、高校生のためのプログラミング・ITキャンプ/スクールです。27名の中高生と6名の教員が、まずお互いをよく知りあう自己紹介をし、近未来のICT社会を描いたMovieを観て、スパゲッティタワーコンテスト(20本のスパゲッティでどこまで高いタワーを作れるかの競争)をした後、3コースに分かれてプログラミングに挑戦しました。そのそれぞれのコースは、カウントアプリを作成する「iPhoneアプリ」、敵をよけながら道路を走るカーゲームを作成する「2Dゲーム」、プログラミングで図形を作り制御してグラフィカルアートの世界を体感する「メディアアート」です。テキスト通りに忠実に作成する人、明るく元気なメンターのお兄さん、お姉さんに積極的に質問をしながらテキストのレベルを超えて自分のやりたい拡張機能をプログラムに付加する人など、各自がいろいろな発見や体験をし、あっという間の楽しい3時間を過ごしました。iOSプログラミングは今の千里キャンパス内では積極的に取り組める環境がそろっていないので、情報科の授業としてはまだチャレンジできていません。でも日頃iPadやiPhoneで積極的にアプリを活用している人が多い中、これらのアプリはいったいどうやって作成しているだろうと疑問や興味を持つ人がいるのも当然のことで、このような動機で参加した人も多いようです。

各コースの参加者に参加した感想を聞きました。

★「iPhoneアプリ」コース参加 SIS G9 前田杏花

今回は初めてLife is tech! に参加しました。「プログラミング」というと、何だかすごく難しく、堅苦しく感じる人もいるかもしれません。私も、そう思っていました。でも、このセミナーはそんな私のイメージとは裏腹に、アットホームな雰囲気、内容も専門用語が飛び交うような難しいものではありませんでした。私の参加した2Dゲームでは、配布されたプリントを見ながら、自分ひとりの力で1からゲームを制作しました。上手くプログラム出来るのか、初めて使うマックを使いこ



なせるか、正直不安でいっぱいでしたが、その一方で、未知の世界を探検するような、そんなワクワクもありました。もちろん、制作過程で様々な問題が発生しましたが、大学生のメンターの皆さんが優しく、丁寧に教えて下さったので、何とか1つのゲームを完成させることができました。プログラミング初心者の私でも、すごく楽しかったです。また、このような機会があれば、参加したいです。

★「2Dゲーム」コース参加 SIS G7 村山泰知

9/26(土) Life is Tech! x SOIS iPhoneアプリ・カーゲーム・メディアアート 開発無料体験会に参加しました。案内をもらった時、内容が難しそうだったので申し込むかどうかギリギリまで悩みましたが、その心配は杞憂に終わって、とても楽しくて有意義な体験ができました。僕は、iPhoneアプリの開発体験を選びました。プログラミングの知識は全くなく、その点が心配でしたが指示どおりにコードを打ち込んでいくと、意図したとおりにコンピューターが動作するのが面白かったです。動作が想像できるコードもあれば、(例number = number + 1)全く見ただけではわからないものもあって(例@IBA function plus)、もっとコードを勉強したいなと思いました。次回はぜひゲームの開発体験に参加したいです。

★「メディアアート」コース参加 SIS G10 吉野弘樹

今回Life is techの講習会で、私はメディアアートのコースに参加しました。講習会をして下さった大学生のお兄さんとお姉さんがすごく話しやすいムードを作ってくれたり、すごく楽しい時間を過ごすことが出来ました。メディアアートのグループは校長先生と教頭先生も参加されていて、最初は少し緊張していたのですが、自己紹介とパスタタワーで先生方や下級生の子とも打ち解けられたと思います。

同じグループの人たちと仲良くなってから、メインのメディアアートの講習が始まりました。お手本のプリントを見ながらメディアアートを作るソフトで自分たちの作りたいように作ることができてすごく楽しく、3時間という時間が短く感じられました。すごくいい体験をすることが出来ました。今回参加することが出来て本当によかったです。また次、参加できる機会があれば参加しようと思います！



Two Schools Together

New Faculty

Carolyn Marshall

OIS Elementary Principal

I'm delighted to have joined the elementary section of Osaka International School. As teachers and students we have started the school year thinking about how to build a community of learners. The Grade 5 students planned and led the first assembly of the year reminding everyone that to create such a community it is essential to be caring — a PYP learner profile attribute at the core of our mission statement that we are highlighting this year.



As leaders of the elementary school, Grade 5 prepared a quiz to help younger students remember how to get along with one another. Each grade level was asked questions to suit their school experience. I was very impressed by the thought with which the Grade 5 students prepared their questions, as the following example by Mio, Jine and Tomoka demonstrates:

Grade 2 — if you see someone alone what will you do?

A: Go invite her to play with you and your friends.

B: Pretend not to notice.

C: You are wanting to help her but...

D: Tell the teacher

Mr Jones and I will continue working with Grade 5 to help them develop their leadership skills further in the coming weeks.

I have also enjoyed working with Grade 3 to create mobiles of personal qualities that each individual contributes to their class community. A number of the students created images of brains and smiling mouths to remind themselves to be thinking communicators. I have certainly found that the communication skills of the students have been very helpful to me as I have been challenged by the labyrinthine complex of the campus. I have had to become an inquirer when unable to find my way and a number of students have been very helpful with directions.

Coming from a large international school in Luanda, Angola — a very dry area — I have been struck by the lush greenery of Osaka. Gardens have always been a passion of mine and I look forward to working on various green areas of the campus with the students. One of the joys of elementary schools is helping the green shoots of learning flourish. (from Educator, 12 September 2015)

David Haske

DP Chemistry & MYP Science

Hi, my name is David Haske and I am a new MS/HS science teacher at OIS. I am from the east coast of the United States and am a graduate from the University of Richmond with a degree in chemistry. I have spent 15 years as an environmental chemist and another 15 years teaching science in such countries as Aruba, Guatemala, Croatia, and China. I am married to third grade teacher, Jennifer Egan. We are all excited to be part of the OIS community and we look forward to exploring and experiencing all that Japan has to offer.



Jeremy Welburn

OIS MYP Mathematics and Science

Jeremy hails from the state of Oregon, USA and he taught at the International School of Beaverton before coming to OIS. "I have been extremely impressed by how OIS and SIS welcome new staff members to Japan! I certainly feel that I have been brought into a new family here.

The students are polite and respectful, displaying a natural appreciation for education. There is a very exciting, energetic feeling throughout the building. When walking around the area near the school, people are polite & friendly. I have enjoyed seeing the unique architecture throughout the Osaka area. Overall, I feel like this is a home away from home."



Daniel Ligon

OIS Elementary Music and HS Choir

Daniel taught for many years at the International School of Kenya and prior to that in the Congo. "Coming to Japan has exposed me to a new way of looking at life, different from my history in Africa. The biggest differences I have experienced are how clean everything is (including parking garages!); how quiet the airports, trains and buses are; the endless amount of skyscrapers mixed in with green spaces so that this big city feels like a suburb or small town. Coming to SOIS is a great experience for me thus far and getting into "elementary mode" a welcomed change in my career. I look forward to dancing and singing along with the elementary and providing my own professional musicianship with the High School Choir.



KWANSEI GAKUIN

Senri International School (SIS)
Osaka International School (OIS)

Sarah Wakefield

OIS Head Librarian

Sarah previously was a librarian in Peru, South Africa and Venezuela, prior to coming to OIS. She is the mother to twin 4-year olds, Emma and Beau, who are in KA. Japan has been very welcoming. I have never felt so out of sorts and yet so supported at the same time. From the airport, to the hotel, to the school and staff, everyone has gone out of their way to make me and my family feel welcome and to help understand me, and help me understand even though I have yet to learn a bit of Japanese. I am soaking up the newness of everything, making decisions about my house, putting two kids on my bicycle and trying foods that I have not had before. Teachers have been helpful and also open to working with me to take over the program and also to build on what has been started. As a family and as a teacher I am still finding my new "normal." I can't wait to spend some time exploring the city and the country of Japan. We are enjoying the greenness of the city and the warm weather (although I understand it's usually quite a bit hotter). I'm excited to have all four seasons and a winter as I have not had either really for over 10 years! I'm hoping my kids will get a chance to see and play in the snow as I did in my childhood.



Nadia Kralovec

OIS Kindergarten A

I am not new to Japan, but new to working at the school in a full time capacity. People at the school and Japan are friendly, kind and quiet. I really enjoy riding my bicycle and the clean air of Minoh. My favorite place to visit in Japan is Mount Daisen. The parents of OIS are very nice and I am looking forward to being the first OIS teacher for the 12 KA students!



Jennifer Egan

OIS Grade 3

Jennifer Egan is originally from upstate New York but now resides in North Carolina. Jennifer has a Masters in Elementary Education from Wheelock College and a BS from Babson College. She has taught in Aruba, Guatemala, the U.S., Croatia, and China. Jennifer is here with her husband, David, a science teacher at OIS and their two young children, Owen and Matea. She enjoys traveling, hiking and cooking. "I feel so lucky to be living in Japan and working at OIS. Everyone has been so welcoming."



Trevor Jones

OIS Grade 5

My name is Trevor Jones and I am originally from Canada, but I have spent the past 6 years in Singapore, most recently at Stamford American International School. My two children, Ethan and Elina are students in the elementary school. I'm very excited to be joining the school community and learning more about the Kansai area as I previously lived and taught at an international school in Tokyo. It should be an exciting year working with the students and I'm really looking forward to preparing them for the Middle Years Programme.



来田 梓

図書館

8月から図書館で働くことになりました来田梓です。今まではインテリアデザインの分野で働いており、6月までニューヨークで学生をしていました。学生から学校職員になり、急に立場が逆転し不安もありますが、この素晴らしい環境でのお仕事に恵まれたことを大変嬉しく思います。日本では立命館アジア太平洋大学という同じくインターナショナルな大学におりましたので、生徒と同じ気持ちや目線で図書教育の手助けができるよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願いします。



廣本美幸

図書館

私は、長く大学の国際交流センターにて留学プログラムを組むコーディネーターとして勤務してきました。その間に何百人もの日本人留学生をアメリカやイギリス、オーストラリアへ派遣してきました。その学生達をエスコートした際に、皆が口々に「文化が違うから辛い。なのでホームシックになる。」と良く言っていました。でも、このインタースクールに来てみんなの様子を見て分かったことは、日本人留学生達とは裏腹に、文化の違いを当たり前とし、それを楽しんでいるということです。人間誰しも思い通りに行く方が何事も容易く過ごせますよね。でも、誰にも変えられないものはあって、それに適応する力こそ本当のその人の力だと思うのです。運命を変えることはできなくとも考え次第で人生を変えることは可能ですものね。私も皆さんとの日々のお会いの中で沢山の喜びと悩みをshareしてこれからのこちらでの生活を大いに楽しみたいを思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



NEW FACULTY

SIS SGH動き出しています



井藤真由美
SIS教頭

インターカルチャー前号で、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けたことの意味と、その概要をお話しました。今号では、夏休み中のフィールドワーク、秋学期の授業など、SGH校としての取り組みについてどのように動き出しているのかをお知らせします。

1. 課題研究

a. 現11・12年生の場合

11・12年生では、全員の取り組みではなく希望者が参加しています。現在参加者は11年生17人、12年生10人の合計27人です。

●フィールドワーク

今年の夏はSGHフィールドワークとして学校から二つ用意しました。「栃木(アジア学院)&東京(担当教員:田中守・青山)と、「オーストラリア(国立大学)」(担当教員:河野・加納)です。どちらのフィールドワークとも、取材手法についての事前学習を行い、フィールドワーク中は各分野の第一線で活躍しておられる方々にお会いして取材形式にて質問をすることができ、生徒たちにとって非常に実り多いフィールドワークが実現しました。どんな方にお会いして、生徒たちが何を掴んだのか、参加生徒による報告がこの後にありますので、詳細はそちらをご覧ください。

●新規授業「リサーチとフィールドワーク」(担当教員:青山・津高)

夏に学校が提供したSGHフィールドワークでの、各分野の第一線で活躍しておられる方々へのインタビュー、そのテープ起こしという作業から開始し、フィールドワークで得た刺激と感動を土台に、各自の研究テーマを設定しました。この授業の中で文献の資料に触れ、さらに追加のリサーチを加えながら論文作成の手順に従って進めています。今学期終了までにファーストドラフトを仕上げることが目標です(総合一単位)。この授業でファーストドラフトまで仕上げたあとは、担当教員のアドバイスを受けて次の学期中に課題研究論文を完成させます。(さらに総合一単位)

課題研究のテーマとして今学期の生徒があげているものを一部紹介します。

「本当の幸せとは何か? ~ 貧困な国から裕福な国まで~」

「Why are not refugees welcomed in certain countries? -The Roles of Organizations Supporting Refugees-」

「発展途上国のストリートチルドレンが家庭に戻るにはどうすればいいか」

「過去のリーダーから学ぶミャンマーの政治界におけるリーダーシップのあるべき姿」

課題研究のテーマ設定や内容の深化において、SIS教員の日常的なサポートに加え、大学の先生方の支援も受けることができます。今年は試みとしての意味もありますが、関西学院大学総合政策学部の8名の先生方にご賛同いただき、Facebookの非公開ページを立ち上げました。そこで授業参加生徒が専門の分野に詳しい大学教授の先生方に直接質問をさせていただき、お返事をいただくということが実現しています。大学の先生方にはお忙しい合間に詳細な情報や的確なご指摘をいただき、生徒一同と共に感激しています。

また、追加のリサーチとして、個人的に学外の人へのインタビューなどを進めている人もいます。学校からは外部団体との交流の機会も積極的に紹介しており、9月26日に関西学院上ヶ原キャンパスで開催された「途上国において国際貢献活動を経験した大学生と高校生のワークショップ」に、この授業選択者から7人が、9月27日に大阪星光学院で開催された「関西の高校生による対話を通じた交流会」に4人が参加しました。引き続き学外での学びや交流の機会、研究の発表の機会を提供していく予定です。*これらの案内は、すべての高校生にお知らせしていますので、SGHの課題研究の取り組みに参加していない人でもどうぞ積極的に申し込んでくださいね。

b. 現10年生の場合

現10年生以降は、すべての生徒が課題研究に取り組みます。今年の10年生は、先輩たちが「比較文化」の授業で全員がG10時に論文作成に取り組んできたことからの進化系として、新設の授業に登録しながら独自のリサーチを進め、「SIS高校生である間に、自分の研究テーマを持って課題研究に取り組む」ことになる第一期生です。

●新規授業「知の探究」(主担当:野島 / サブ:青山・津高・井藤)

週に一時間の授業(総合一単位)。この授業では、人類の知の遺産を学びながら、論理的思考の訓練や主要な学問領域の研究手法や証明の方法の違いについての学びを経て、課題研究・論文作成の基礎を習得します。各自の研究テーマを決定して「研究デザイン」を作ることが最終目標です。

これらの内容と平行して、今学期は10月19日には上ヶ原から時任隼平先生をお招きし「研究ってなに?」の講義を、11月9日には総合政策学部から村田俊一先生(現在国連勤務@バンコク。11月から総合政策学部の客員教授)に来校いただき講演いただく予定です。また冬学期には理工学部の先生と人文科学系の先生にも講演をいただくべく計画しています。

(今年はこの授業が秋学期からのスタートとなりましたが、来年度からは春学期からスタートの一年間のコースとなります。)

●今後の予定

「知の探究」の授業の終了までに「研究デザイン」を作る、と上で書きました。「研究デザイン」に含まれるのは、1) 自分の課題研究テーマ 2) 次に履修すべき「リサーチとフィールドワーク」の授業の予定(時期は自分で選択できます) 3) 参加希望する、学校が提供するフィールドワーク 4) 追加のリサーチとして参加予定のプログラム・実行したいと考えていること 5) 自分の課題研究テーマに従ってこれからの二年間に履修希望する授業 などです。

この内容に従って、現10年生の場合の今後の予定をシミュレーションします。

2) 今年希望者だけが履修している「リサーチとフィールドワーク」の授業、時期は選択できますが12年生春学期までのどこかで履修してもらいます。この授業の内容は上で紹介している通りで、フィールドワークや追加のリサーチという体験をベースに、この授業履修期間中に研究論文のファーストドラフトまでを完成し、その翌学期は受け取った教員からのアドバイスを参考に、完成した論文を学校に提出してもらいます。

3) のフィールドワーク、まもなく学校が提供できるものをまもとめて

お知らせする予定です。現11・12年生の参加者が実践した「各分野の第一線で活躍しておられる方々に取材をする」ということをコアにしたプログラムを揃えています。お楽しみに！

4)5) 学校が提供するフィールドワーク以外にも、自分が選んだ研究テーマに関連付けて色々な活動に、より積極的に参加してほしいと思っています。これまでもSISでの学びにあった「本物の機会」に触れること、自ら出かけて行って「体験」することを各自がより意識的に、そして自分の研究テーマを意識しながら取り入れてもらいたいと考えています。また学期ごとに自分で授業を選択するという本校のユニークな授業選択システムにおいても、研究テーマとのつながりを見つけていけるならば幸いです。さらに言えば進路の選択に関連付けられる可能性もあるでしょう。

SGHの研究テーマは、「Myテーマ」として高校在学中のあなたのアイデンティティともいえるものとなります。だからこそ、「よりよい・より平和な世界構築への貢献」という大きな構想のもと、本当に自分が興味を持っていること、もっと知りたいと思うこと、自分が夢中になれそうなこと、を見つけてもらいたいです。4月のアイスブレイクキャンプで阪先生をお招きしてキャリアデザインについて学んだことや、10月13日に校外学習として関西学院大学での授業を体験したこともヒントになるのではないのでしょうか。

2. IBの授業参加の機会拡大

こちらは、全員を対象にしたものではありませんが、IBDPの授業機会の可能性を広げることも、SGHの構想の一つとしてOISの管理職を含む関連教員と共に進めています。現在SISでは、ひとりの12年生と、3人の11年生がディプロマ取得を目標に授業を選択しています。ディプロマのプログラムに参加している人はプログラムの一環でExtended Essayという論文を提出しますので、それをそのままSGHの論文を仕上げたものともみなします。

SIS英語科はIB English Bの2年間コースをこの秋から提供しており、HL(SISではhレベル)、SL(SISではlレベル)ともに20人を超える人が履修中です。ディプロマの取得ではありませんが、二年間コースの締めくくりにはIBの試験を受け、その結果に応じた証明書(Certificate)が授与されます。なお、IBに関する説明会は2月に実施の予定です。



以上、今学期からの具体的な動きを紹介しました。新しい変化という点に集中してお伝えしましたので、ここまで読んでくださった方にここでお願いします。今一度、本校の本来のトータルな「スーパーグローバルぶり」にも目を向けていただきたいと思います。このインターカルチャーで報告されている様々な学内・学外の活動をあらためて眺めて見ていただくとわかるように、教室の外でも、SOISでしかできないと思われるユニークな活動、「本物」に触れる体験の機会、生徒が果敢にチャレンジしている外部の活動、がたくさんあります。先にも書いたように、SGHの取り組み、「My研究テーマ」を持つての取り組みは、それだけが単独で新たに誕生したものではなく、これまでのSISでの学びのスタイルを融合させ進化させたものです。ですから、これをきっかけに、SIS(SOIS)が提供または紹介する様々な活動や各教科の提供するバラエティ豊かな授業が、(今までもそうでしたがさらに)生徒にとって意義ある結びつきのあるものとなるようにしていかなければならないと思っています。SGHの取り組みによって、高校生一人ひとりが今まで以上に、“自分らしさ”を意識して自らの学びをデザインする学習者であってくれるように、と願っています。

次号では、「SGH課題研究テーマと、色々な活動や授業との結びつき」についてお話したいと思います。

最後になりましたが、SGHは田淵統括と眞砂校長のもと、本文中に記載のある担当教員、そして秋学期よりお迎えしたSGH担当教員の津高絵美さんとSGH事務担当のRolland恵子さんによる委員会を中心に、SISの全教員の関わりですすめています。

<津高さんとRollandさんの自己紹介>

■津高絵美

SGH担当

スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)担当の非常勤講師として9月1日に着任いたしました、津高絵美です。10年生の方々は「知の探究」で、11年生と12年生の方は「リサーチとフィールドワーク」でお目にかかることとなります。主に皆さんが研究をしたり、論文を書いたりする際のサポートをさせていただきます。学生時代は応用化学を専攻していたのでリケジョです。大学院時代は環境政治学を、スウェーデン留学時代は環境コミュニケーション学を専攻していました。SIS10期生です。



開校以来SIS(私が入学したころはOIAでした)には、素晴らしい学びの場があり続けていると感じています。それは教える側・学ぶ側両者が日々、この学びの場を一場面ずつ作り上げてきたからに他なりません。日々、皆さんはどんな想いで、この学びの場を作っていますか？

実は私は、2008年に行われた国連の気候変動会議にユースとして参加した経験があります。その国連の会議で、私は非常に強烈な体験から一つの学びを得て帰国しました。その学びとは、「世界平和は、人間の行動一つ一つの積み重ねでできている」ということです。というのも、各国のリーダー間で合意がまとまっていたかに見えた会議が、ある時突然批判の連鎖によってまとまらなくなってしまったのを目の当たりにしたのです。気候変動問題に取り組むため、各国の「合意」は「一緒に問題に取り組むチームとしての結束」を意味しますから、合意が形成されなかったことは本当にショックでした。しかし、この体験から、「世界平和は、人間の行動一つ一つの積み重ねでできている」という学びの贈り物を得たのでした。これは、今ここから世界平和を作ることができるという、私の信念の土台になっています。

最後になりましたが、SGHって一体何なのでしょう？…日々、皆さんの活動によって形作られる、SISという学びの場を、仕組みづくりから応援していくのがSGHだと私は考えています。皆さんの輝きに磨きをかける瞬間を一つ一つ積み重ねていけることを願い、私も学びの場づくりを日々行っていきたくと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■ローラン恵子 (Rolland, Satoko)

SGH事務

はじめまして。9月よりSGH事務として勤務しておりますローラン恵子(サトコ)と申します。すでに始動しているSGHの高度な取組みに対する先生方の情熱を目の当たりにし、自分自身がこういう環境で学びたかったと思うくらいです！生徒皆さんが今後ますます頑張れるよう影ながら応援できればと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。



SIS SGH Fieldwork in Canberra



貴重な体験

安岡加紗音

SIS 11年

今回のフィールドワークでは、オーストラリアで活躍する様々な研究者、仕事に就いている方たちにお会いすることができた。オーストラリア人のみならず、現地で働く日本人の方からもお話を聞いたのは興味深い経験だった。

NASAを訪問した際には、アポロ12号が月面着陸した時

に通信していたアンテナを見学できたり、現在、木星と通信しているアメリカのカリフォルニアにあるアンテナを、実際に私たちが操作して動かしたりと、貴重な体験をすることができた。

私がお話を伺った中で特に興味深かったのは、CSIROに勤めている日本人研究者の方のお話で、通常魚に多く含まれる「DHA」を、多くの人が手軽に摂取できるように植物の遺伝子を組み換える実験に取り組んでいらしゃった。環境への負荷を減らすことにも繋がるため注目されている技術で、その最先端の現場を目にすることができ、感動した。数年後に商品化される可能性もあるので、研究の行方に注目していきたい。

日本大使館で働く外交官の方とは、日本とオーストラリアでの教育制度の違いや働く上での環境の違いなどについてお話を伺った。オーストラリアでは「残業制度」がないため、日本と比べて家族と過ごす時間が多く、働く女性にも優しい社会環境だということを知り、日本も見習うべきだと思った。

研究者の方たちは皆、難しい研究内容を高校生の私達に理解できるように、丁寧に話してくださり、また、私たちのささいな疑問にも答えてくださった。その為、どんどん話が膨らみ、深く掘り下げることができた。結果、自分たちの視野を広げ、これから将来を考えていくうえで大きなヒントを得られたと思う。



実験室と研究者

亀田瑠佳

SIS 11年

第一回目のSGHの理系プログラムに参加して色々な科学分野の実験室を訪れるたびに私が思ったことは、「ここにある機械たちはどうやって使われるんだろう」という疑問でした。初めてみる機械や道具ばかりで見ただけで楽しくなり、興奮しました。こういった道具を使いこなしながら研究者たちは色々な発見や仮説を立てて実験を日々行ってい



るのだと実感できました。薬学の実験室では見たこともない、一回つまむだけである一定の量が吸えるという機械的なスポイトを発見しました。物理室では、実験のために使うレーザーの機械があり、それは自分がやっている実験に合わせて最初から自分で作っていると聞き、とても驚きました。そして化学室では、学校にある薬品の10倍の大きさのものが置いてあり、また遠心分離機という密度の異なる混合物を分離させる機械も、洗濯機1個分ほどの大きさがあるものは初めて見ました。

また、研究者へのインタビューなどを通して、知らなかったことを知る機会が多くありました。例えば、実験を始めるきっかけになるリサーチクエストについてです。私は今までリサーチクエストは長い時間かけて考えて、プレゼンテーションや論文に、それについての答えを述べるものだと思っていました。しかし、研究者は揃って「リサーチクエストは、自然に出てくる。」と言っていました。ある実験の一つやり始めると、何個もリサーチクエストが出てくるので、それを一個一個解明していくそうです。私はこの話が一番印象的でした。私はこの一週間のプログラムによって新しいことを発見でき、多くのことを考えさせられる有意義な時間でした。



自由時間での活動において

田井愛美

SIS 11年

私たちは自由時間内に現地の戦争博物館 War Memorial で歴史について知識を深めたり、科学館で私たちの身の回りに起こる不思議な現象を体験したり、ショッピングに行ってお土産を購入したり、日本大使館や国会議事堂を訪れたり充実した自由時間を過ごしました。



まず、戦争博物館ではゼロ戦や日本の戦時服、終戦時の天皇の発言が綴られた書類などを目にしました。最初は友人と軽いノリで入ったので後で後悔しました。内容があまりにも重くて、とても戦時中の方々に申し訳なくなりました。私は平和に、健康に生活できて幸せだと心の底から感じました。そして戦時中の人に顔が立つようにもっと今を大切にしようと思いました。

また、私たちはQuetsaconという科学館で目の錯覚などといった不思議な現象について学びました。私の一番の思い出は一生懸命頭をひねってピラミッド型を作ったことです。私たちが意地になって、「これは絶対終わらせる！」と一生懸命ブロックとにらめっこしました。最終的に完成したらみんなで達成感に浸りました。

国会議事堂ではみんなで記念写真をたくさん撮りました。お昼ご飯を食べているときに鳥が寄ってきて、一人がその鳥にエサをあげるとほかの鳥が群れるので、その後は鳥にご飯を狙われるのが嫌になりました。私は鳥が好きなので鳥と仲良くなりましたが、鳥が苦手な友人は一生懸命鳥から逃げていました。

自由時間での行動は知識だけでなく友人との絆を深める素晴らしい時間でした。こんなにも素晴らしいプログラムに参加できて、貴重な体験をさせていただいて本当に感謝しています。ありがとうございました。



SIS SGH Fieldwork in Tochigi and Tokyo



国際貢献プログラム リサーチのための取材旅行

横山菜乃

SIS 11年

自分の道が少し開いた夏休み。そのきっかけは7月13日から17日まで行ったSGHの国際貢献プログラムでした。SISがSGHに選ばれたのは今更？と思っていたけれど、選ばれたからこそできたこのプログラムには本当に感謝です。

事前のSISとKG上ヶ原、JICA関西(神戸)での1日研修後、わたしたちは、まず栃木県のアジア学院で2泊しました。アジア学院とは、途上国から来た農村のリーダーが、有機農業の知識やリーダーシップの取り方を学び、さらに自身で農業を体験し、その技術をまた自分の国へ持って帰って広めるための学校です。そこでは、校長先生や実際に途上国からの学生さんに話を聞き、さらに自分でも農作業を体験しました。その後は東京へ行き、元アジア学院校長、国連の職員の方、そしてNGOのSave the Childrenの方からお話を聞きました。夜には全員が集まってミーティングをしましたが、すぐ終わるはずが段々と白熱した討論にもなりました。

以下にこのプログラムに参加した生徒の感想を少し紹介します。

今回私がアジア学院で体験し話を聞いた全体で一番感じたのは、日本にもたくさん問題があり、日本はそれらの問題を急いで解決しなければならないということである。例えば日本の中の格差や自殺率の問題、自分たちの食べるものを自分達で作れていない食料自給率の問題。そしてその問題を知ったことで、これまで私、私たちがいかに発展途上国を見下していたのかわかった。それまでは「かわいそうやから助けてあげなあかん」と思っていた気がする。見下していた事は改善されるべきだし、私たちは日本が抱えている問題をもっと知るべきだと思う。そのためには教育から変えなければいけない、とアジア学院で過ごし、各sessionを受けて思うようになった。

実際に参加したら、国際協力への興味が湧いただけでなく、インタビューのスキル、今世界が必要としているコミュニケーション力、ディスカッションで意見を伝える力などたくさん自分を向上させることができた強く感じた。今後もこの上達を止めることなく、様々なプログラムに参加しながらもっと自分を変えていきもっと世界を見たい。世界に対して何が自分にできるか見つけたい！

私は、この世から貧困がなくなるとは思わない。紛争はアイデンティティーの不一致や、宗教の違いによって起きるものが多い。久木田氏はみんなのアイデンティティーを統一したら、貧困は無くなると思うと話していたけど、私は、それは不可能だと思うし、それがダメなこととは思わない。人間はみんな違ったアイデンティティーがあるはずだ。それをみんな一緒にするべきではないと思う。違うからこそ面白いと思う。

自分自身が思っていた以上に自分は人が好きで、色々な背景を持つ人々の暮らしや考えに強い関心があるということを知った。いろんな外国の人が初対面の私に心を開いて自分の話をしてくれたことは感動的であったし、彼らももっと親しくなりたいと思った。黒人の輝くような笑顔やアジア人の恥ずかしそうな顔がとても印象に残った。

みんなが今中学校や高校で勉強していることは本当の勉強じゃないと思う。本当の勉強というものはこのSGHで学んだようなこと。



みんなで協力して、なんとか助け合って生きようとする事だと思う。人間は助け合っていないと生きていけないから。この問題は我々一人一人に関係ないことではない。みんな一人一人の人間が人間として考えるはずのあたりまえのことだとこのSGHを通して学んだ。

貧困とは、いま世界にある様々な問題の中でも大きな問題です。世界の80%の食料を20%の富裕層が取り、残りの20%を80%の人が分け合っている、そんな現状です。今回このプログラムに参加してたくさんことを学びましたが、私が一番大切にしたいのは、自分の恵まれた環境に感謝することです。感謝しない、ということは今まで散々いろんな人から言われてきたことで、わかっているつもりでした。でも心の底からわかってはなかったんだと思います。その感謝を五感を使い、たくさん感じる事ができた5日間でした。

身を持って農業を体験し、動画や写真を見ることで、自分が何気無く口にしている全てのものが誰かの汗や動物や植物の苦しみからできていること、自分自身が汗をかいて食物を食べたときの身にしみる美味しさ、私たちは特に恵まれていて、途上国の子供達は十分に食べることができていないこと、今回話を聞いた人は実際に途上国へ行ってそんな状況を実際に目で見てること、実際に苦しんでいた途上国の人自身と交流でき、実体験を直接聞いている自分。

参加者の感想の中でも特に多かったのが、「当たり前なことが当たり前じゃなかったこと」に気付けた、という思いです。全員共通のこの思いはやはり身に持ってこのような形で体験しないと感じられない、上辺だけの言葉だけでは足りない感覚です。恵まれている私たちこそ一番持ち続けなければならない感謝を、何かの犠牲の上に私たちがいることを、忘れていていると思います。そんなゆがんだ世界になってはいけなし、実際に体験した私たちはみんなに思い出させるべきでしょう。このプログラムは来年から全員参加になるそうです。こんなチャンスは他の学校の人は体験できません。だからこそ真剣に向き合い、与えられたこのチャンスに何かを見出して自分が感じた感覚を皆にも忘れずにいてほしいです。

最後に、このような機会を与えてくれた人たち、関わった全ての人に感謝します。また、一緒に行ったメンバーにも、私は恵まれました。取材でのたくさんの考え深い質問や自分の考えつかないような質問をする人には勉強になったし、何より全員真剣にミーティングで意見を言い合い、夜中まで熱い討論を交わしてくれた仲間がいたことには本当に刺激になりました。ありがとうございました。

SIS Summer Camp

フィールドレンジャー 里山家族

岸 大樹
SIS12年



「繋」。僕たちフィールドレンジャーは、このテーマを胸に、約1ヶ月間、放課後やアンスケなどの時間を使って、7年生の最高の笑顔のために、キャンプ「里山家族」を企画してきました。「里山家族」は、7年生全員が参加し、彼らにとっては、初めての泊まりがけの行事です。

そのキャンプで、僕は総合責任者である、「村長」を務めました。5月末から学期最終日までという期末テストや課題などが多く大変な時期でしたが、放課後遅くまで残ってミーティング重ねました。

準備期間を終え、いよいよキャンプ本番の朝がきました。期待や不安、さまざまな思いを胸に、僕らは7年生を迎えました。開村式での7年生代表からの素晴らしい挨拶で里山家族が始まりました。自分たちだけでなく、7年生の体調や安全にも気をつけて行動していくことが必要となってきて、大変な日々が始まりました。7年生との距離が一番近いペアレンツ。料理やお風呂のために必要な火おこしを7年生のみんなに教え、常に一緒に行動し、面倒を見ていました。ペアレンツが水分補給をこまめに声かけていたおかげか、体調を崩した子は例年に比べ少なかったです。プログラマーは、プログラムの企画はもちろん、当日の準備や司会進行もし、1日の活動スケジュールをスムーズに行うことができました。今年のプログラムは1つ1つが充実していて、7年生はもちろん、参加者全員がどれも十分に楽しみました。しかし、ペアレンツとプログラマーだけではキャンプの運営はできません。火おこしや荷物運びを助けたり、時にはわいわい村の端から端までダッシュしたりと、炎天下の中、大雨の中、常にキャンプ運営をささえてくれたヒーローがいたからこそ、成功したと思います。また、キャンプ全体のスケジュールに細かく目を配ってくれたプログラム総合責任者の里佳。キャンプ中の備品、食品を全て管理していた春花。みんなで力を合わせた結果、7年生どうし、そして7年生と僕たちレンジャーの心が繋がりに、ひとつになることができました。

このような大人数をまとめるという経験は初めてでした。このような僕に最後までついてきてくれたみんなのおかげで最高の里山

キャンプになりました。今年の「繋」里山家族の村長をできて光栄です。また3年後、7年生のみんながレンジャーとなっている姿を見るのが楽しみです。

海洋&マリンリーダーキャンプ

相良宗孝
保健体育科

海洋&マリンリーダーキャンプは、今年も徳島県阿南市にあるYMCA阿南海洋センターで、76名の参加者と5名の引率教員(山城、牧、相良、野島、三ツ橋先生)で4日間の日程にて行われました。今年もカヤックやヨット、カヌーなど日中のさまざまな海のプログラムに加え、即興劇や各種レクリエーションなどの夜のプログラムまで、盛りだくさんで行われました。下記に夜のプログラムやキャンプ全体を取り仕切ってくれた2名のリーダーのコメントを載せましたのでどうぞご覧ください。

徳原茉莉花 藤本くるみ

総リーダー、総副リーダーとして参加した海洋キャンプ。何度もミーティングを重ね、参加している85人をまとめる努力をした。大変なことも多く失敗もしたが、YMCAや各班のリーダーの方々、そして引率の先生方に支えられ、成功へと導くことができました。このキャンプを通し学んだ事がたくさんある。

リーダーとしてキャンプ中、毎日前に立って連絡事項などを伝えなければならなかった。たとえば、授業で行うプレゼンなどでは聞いていなくても少人数だから質問することができたがキャンプになるとそうは行かない。海洋キャンプはリーダー、キャンパー合わせると85人になる。この大人数の中でわからない事があった時に聞くのは難しい。ましてやミドルスクールだとさらに難しい。そしてわからないまま終わると同じ質問を何人もの人にされたり、時間をわかっていないと遅れてその後のアクティビティの時間がなくなってしまう。さらに持ち物や注意事項を聞いていないと怪我にもつながる可能性や参加できない事がある。よってただ大声で言うのではなく、相手がちゃんと聞いて理解できるように工夫しなければならなかった。

海洋キャンプは朝起きて朝の集いをして午前、午後二回の海のアクティビティを行い三食食べてお風呂も入って夜のレクリエーションを行うというのが一日の流れだ。アクティビティもスタッフの話聞き、命の確認のバディーをして船の準備をしてから海に出



る。浜に帰って来てからは片付けてバディーの確認をしてから次の集合時間を聞いてお風呂に入る。アクティビティの時間も限られている中でこれだけの事をするのに時間に遅れてしまうと全部の予定がずれてしまうので「少くく遅れても大丈夫」とは考えずに早め早めに行動するのが大切だと思った。

そして参加者に楽しんでもらうためには、リーダー達も自らキャンプを楽しまないといけないということもわかった。キャンプが終わってからは、多くの参加者から、とても楽しかった、ありがとうと言ってもらったり、メッセージが届いたりし、本当に感謝と喜びの気持ちで胸がいっぱいになった。この3泊4日の海洋キャンプは、美しい自然の中で行うマリンスポーツや他の活動を通し、友達との親睦をはかりながら様々な事を学び、最高に楽しむことができるキャンプである。この経験は、必ず将来の私達を支えてくれると信じている。

森の達人 フォレストマイスター

田中 守

SIS理科

森の達人とその運営を担うリーダーたちのフォレスト・マイスター・プログラムは、今年も三田の千刈キャンプで活動しました。森の遊びと、森のグルメを極めることを目指すこのキャンプは、今年も大成功でした。ジップラインやターザンブランコ、キャンプファイアー、パン釜で約手作りパンとダッチオーブンで焼くスペアリブステーキ、地鶏のローストチキン。やれることは何でもとことん極める手作りキャンプです。どんなキャンプだったのか。参加者の感想からご紹介しましょう。まずは「森の達人」に参加した中学生の感想から。。 ■最高のキャンプだった。一緒にご飯作るのが楽しかった。塩パンになったりとか失敗もしたけどそれもまた楽しかった。自分たちで選ぶ初めてのキャンプが森達でよかった。本格的でみんなで全部を作っていたから色々なことを学べた。美味しいものいっぱい食べれて幸せ。ターザンを設置したりするのが楽しかった。来年はリーダーがやりたい。 ■いい思い出ができたし、いい経験になった。疲れていた時もみんなで励ましあってがんばって最後までできた。達成感があつた。 ■初めて

のキャンプで心配事とかあつたし、初対面ですぐ友達になるとかすごく苦手で、シャイだから仲良くなるのに時間かかるかな〜って思ってたけど、みんな明るくて良かった。ご飯とかも美味しく感動だった。 ■一緒に火をこしとかもしてくれたりして、ほんまに楽しかったし、最高のキャンプでした！ ■この三日間では、とても充実したキャンプを過ごすことができました！素材にこだわった食事や自分たちで行動を起こすことなど、去年をはるかに超えるものでした。来年はキャンパーの立場ではなく、キャンプを作っていきます！ ■いろいろなことを学ぶことができました。あんなに楽しいキャンプなのにあんなに学べるとは思ってたかったです。以前に比べるともっと他学年に友達ができて来年もこのキャンプを選



びたいと思います。

次は「フォレスト・マイスター・プログラム」に参加した高校生の感想を抜粋して紹介します。 ■最初、自分がグループのリーダーをしていいのかわからない不安を持ちキャンプに挑みました。最後はみんな仲が良く、助け合いの出来るグループになりよかったです。来年も出来れば参加して、今度はより良いキャンプにしてみせます。 ■先生がテントを一人で張りなさいと僕に仰った時は、すごく焦りましたが、いざやってみると建てることができ、案外一人でできるものだと自信が湧きました。正直自分はまだこの学校の雰囲気になれることができず、腹を割って付き合える友達がいなかったですが、打ち解けあえた気がします。家に帰ってからも達成感と清々さでいっぱいでした。来年も参加したいです。来年こそ僕が火を起こしたいです。 ■僕はこのキャンプでとても大切なものを得ることができました。つながり、友情、人脈です。同じ授業を取っていても喋ったこともなかった人たちと3泊4日の濃い時間を過ごし、終わったときにはもう友達でした。実際これはかなりすごいことだと思います。佐竹先生の笑いのエッセンスも勉強になりました。自分で言うのもなんですが思春期に人脈や友達を広げることはテストで満点を取るより大事なことに思えます。それと、りなとはるかの高さには正直驚きました。 ■初めてのキャンプ、初めてのグループリーダー、初めてのキャンプ作り、どれも新鮮で楽しかったですが、とてもハードな一か月でした。特に本番のグループリーダーは難しかったです。相手との距離感、どう接するべきか、キャンパーどうしの壁など、一日中頭を動かして考えてました。初めて年下の子とあんなに深くまで関わって、仲良くなって、慕ってくれて、とても充実した三日間でした。 ■私はゴミの管理とシェフとして食事の手伝いや、食料の管理、仕分けなどをしてきた。実際にキャンプが始まると思っていた以上に忙しかった。キャンプが終わってから考えると、主役であるキャンパーを裏から支えるシェフという仕事は魅力的だと改めて思った。管理や仕分け、調理、食事、そして片付けやそこから出る残飯を目にするので改めて食べ物大切さを感じた。 ■今回の

のキャンプで学んだことが2つあります。まず初めにミーティングの在り方を再認識しました。ミーティングは個人の意見をシェアし、まとめ、進化させていくために存在し、決してダラダラとみんな話しかうだ

けのものではない。以前までは全員が参加していればそれでミーティングは成立していると思っていました。しかし準備もなくミーティングを行うと何も進まず、決められないことを知らされました。二つ目はマネージメントリーダーを通して、指揮する難しさを痛感しました。自分が思っていることを言うだけでは伝わりません。みんなに聞いてもらえるよう、理解して覚えてもらえるよう伝えないとはいけません。 ■ミーティングを重ねるうちにだんだん、リーダーとしての自覚が湧いてきて、はじめて中学生たちに会うと楽しませたい、満足させたいという思いでいっぱいになり、不安は消えていった。自分たちで作上げた時の達成感、仲間との絆、そして中学生たちに対するリーダーシップだ。リーダーシップは動

かすことだと思っていた。しかしリーダーシップとは、みんなをまとめて、協力し合えるように人を支えて動けるようにすることだと思った。だから、リーダーシップはみんなが持っているべきであると思う。そしてお互いを支え合い、協力し合うことで深いものにしていく。■このキャンプで一緒に活動した仲間には本当に感謝している。楽しい時間が過ぎて本当に良かった。天気も一時とても悪く、気分も落ち込んでいたが、みんなで助け合おうという気持ちをすごく強くもてた。このキャンプに参加できたことをとても誇りに思うし、忘れられない思い出になった。■達人キャンプからこんなに得るものがあったなんてびっくりしました。最初のミーティングではこのキャンプの経験者がたくさんいて、「去年はこうだったよね」とかいう話が多くて、初めて参加する自分たちはどうしたらいいのかよくわからない気持ちでいた。でも最初に中学生のキャンパーを見た時、高校生の自分たちが面倒をみるんだと強く自覚しました。このキャンプを通じてシェフという役職から考えたリーダーシップとは、いつでも先回りして相手もことを考えて、物事をスムーズに進むように前々から考えて準備しておくことかなと思いました。リーダーはいつでも前に立ってみんなの一番目立つところにいるのが一番リーダーシップを発揮している人、というわけでもなく、むしろ事がスムーズに運んで存在を感じなかったのに、あの人がいなかったらこのキャンプは成り立たなかったかもしれないって思ってもらえるような人だと思いました。■リーダーの余裕がなければその不安な心がメンバーにも伝わるし、またリーダーがメンバーのことを思って行動すれば、メンバーに伝わり良いグループを築くことができる。「リーダー」というもののあり方に気がつくことができたこのキャンプに参加することができて本当に良かったと思いました。■本当にできるのか?と思うようなこともありました。乗り越えたことで私達は一步前進し、成長できたのではないかなと思います。周りのグループリーダーにも聞かれたことを、答えたりできたことは去年からの成長を感じるものでした。キャンパー達には、すべてを私たちがするのではなく、ちゃんとリードすることができていたと思います。みんなの協力があって上で美味しいご飯や住む場所作りができました。たくさん大変なこともありましたが、すべて良い思い出や教訓となったと思います。来年はもっと運営側としてリーダーのリーダーになれたらなと思いました。今年のリリーダ達の連携に感動しました。

農家ホームステイ

私たちは4日間西川さんのお宅でお世話になりました。いろいろな和菓子を作り、都会ではできない田舎ならではの挑戦などもいっぱいしました。でも一番楽しかったのはお父さんとお母さんとトランプをしたことです!(きっか、あやは、こころ)

私たちは竿本さんというちょっとシャイなおじいちゃんといこにこおばあちゃんのうちにホームステイしました。蓬アイスやBBQなど、毎日とってもおいしいものをたくさん食べました!!都会では川の水なんて飲めないけれど、日高川の水はとってもおいしかったです!!来年もまた行きたいです!!(ゆき)

私たちは各務さんの家でホームステイが一番楽しかったことは絵手紙を書いたことと川で遊んだことです。ですが、一番つらかったことは雨であまり外へいけなかったことです。新鮮な手作り野菜で作った料理はとってもおいしかったです。(はるか かれん なお)

三泊四日と和歌山県の日高山町にお住まいの神内さんのお宅にホームステイさせていただきました。展望台にいっく、農作業、



滝遊びなどとても充実した三泊四日になりました。

(松井美夕 藤戸美妃 吉本安季 富口真衣)

私達は、龍田さんのお宅にホームステイしました。1日目、対面後に川へ行き自然を体感しました。2日目は収穫後、竹でBBQに使うコップを作り、植ええなどを体験しました。3日目はポッドに土を入れる作業をし、イチゴジャムを作りました。4日目農家さんにお土産をいただきお別れしました。(木村成美、長江未希子、西垣有望)

このホームステイで私たちは片山さんと一緒にトマトやナスなどを収穫したり、海や温泉に連れて行ってくださったりしました。ここでの思い出はどれも素晴らしいもので、一生忘れられません。本当に来て良かったと思います。(りよ ちえ)

僕たちは民泊「千」に泊まりました。竹内さんという優しい人の家に行きました。都会ではできないことをいっぱいしました。みんなでBBQや流しそうめん、花火をしました。すごく楽しかったです。貴重な体験ができました。(慶汰・豪志・里澄)

僕は西川さんのお宅に泊まりました。西川さんのお宅は2つの家があり、1つの家を自由に使わせていただき、とても自由なホームステイになりました。僕たちは白崎、興国寺などに行ってお心を癒しに行きました。とても良い経験になりました。(實淵龍馬)

自分たちは大澤さんの恵の宿に宿泊しました。このキャンプの魅力は、自由時間が多く、普段体験できないような、田舎ならではのアクティビティを楽しめることです。もし、自然を堪能したいのであれば、このキャンプに行くべきです。(宮脇)

ドルフィンスイムキャンプ

馬場博史

数学科

このキャンプはイルカと泳ぐだけでなく、いろいろと普段できない貴重な体験ができます。それぞれのイベントごとに生徒の感想を加えながら報告します。

まず初日はシュノーケリング。初めて着るウェットスーツは不思議な感じで、水がだんだんしみて気持ちよかったです。串本の海は綺麗で透き通っていました。たくさん魚やサンゴやナマコ、ヒトデなども見る事ができました。シュノーケルに水が入った時の抜き方を教えてもらったけど、いざやってみると全然できなくて口の中がしょっぱかったです。体が浮いて潜れなかったので、今度やる時は絶対潜りたいです。

夕食は焼きそばづくりとピザづくり。ピザは自分で生地を広げて成形し、自分でトッピングをして、釜で焼いて食べました。ピザを自分でつくったのは初めてで、すごく美味しかったです。意外とすぐに焼けるので驚きました。

夜は上級生が企画してくれたレクリエーションで盛り上がりました。



1日目は体育館でドッジボール、2日目はゲーム大会でした。このおかげで学年を超えてみんなが仲良くなりました。

2日目はまず釣りです。最初全然釣れなくてボーッと待っていたら小さい魚が釣れて、またボーッとしていたらいきなりタイが釣れてびっくりでした。そのあとにさばいてもらった新鮮なお刺身は美味しく最高でした。焼いた魚もおにぎりも本当に美味しかったです。

午後はいよいよドルフィンスイム。イルカ達が可愛くて最高でした。イルカは私を振り落としたりせず、背中に乗せて泳いでくれてとても気持ちよかったです。イルカは大きいけど優しく人懐こくて、とても可愛かったです。

夜のBBQは炭起こしから始まって、うまく火が付いたら肉や野菜やおにぎりなどを次々と焼いておなか一杯になりました。海の見えるベランダで食べたのですが、雨が降ってなかったらもっとよかったです。

最後の日は水族館のバックヤードツアー。水槽の裏側から観察できて、エサやりの体験やウミガメの赤ちゃんの抱っこなども体験しました。

2泊3日と期間は短いですが、盛りだくさんの内容で、すべてが楽しくて良い思い出になりました。

100kmウォーク

原 左京

SIS11年

僕は6月29日(火)から7月2日(木)の期間、100kmウォークのキャンプに行ってきました。今年は10年生が3人、11年生が10人、12年生が3人の合計16人



の生徒が参加しました。天候は1日目が晴れ、2日目は曇り、3日目は雨も降ったりして天候の変化が激しく、おまけに100kmの道のりがエンドレスに感じ、体力的にも精神的にも厳しいキャンプになりました。しかし最後のゴールには全員一緒に到達することができて、とても達成感のあるキャンプでした。

初参加のこのキャンプですが、一番ツイと感じたのは1日目でした。1日目は集合場所JR堅田駅から新海浜の琵琶湖コンファレンスセンターまで約32kmの道のりを歩いたのですが、日中は晴天で高温と日照りにさらされました。歩き始めて数時間は皆で楽しくしゃべりながら歩いていて、これは楽に完歩できるのでは？と

思っていました。しかし口数はだんだん減っていき、とうとう皆黙ってしまうという事態に。想像以上のしんどさを感じました。息が上がることはなかったです。ただ足裏やふくらはぎなど、足に疲れや痛みを感じさせるしんどさでした。

しかし過酷な100kmウォークのキャンプ中、幸せを感じる時があります。ホテルに着いてお風呂に浸かったとき、布団に入ったとき、そして食事をするときです。特に食事は朝、昼、晩と3食とても美味しくいただきました。疲れてお腹が減っているのがありますが、クオリティが高く、美味しいです。

このキャンプに参加してとても貴重な体験ができました。琵琶湖と風景を眺めながら100kmを歩く、こんな機会は一生に一度きりかもしれません。さらに一緒に参加した仲間や友達とも絆が深まったように感じます。歩くのをやめて車に乗りたいたと思っても、ここまで歩いたのだから最後まで歩きろう！と声を掛け合いました。お互いに励ましあい、皆と一緒に歩いたからこそ、完歩できたのだと思います。この経験から僕を含め全員が精神的に大きく成長できたと思います。一緒に歩いてくれた皆、そして僕らを全力でサポートしてくれた先生方、本当にありがとうございました。

上村みなみ(SIS12年)

高校生活最後のサマーキャンプ、私は100kmウォークに行きました。私にとって100kmウォークは初めての経験でしたが、中には2回目のリピーターの人も2人いました。100km完歩できるかどうか不安な気持ちのまま、ミーティングを重ねてキャンプに挑みました。

キャンプ1日目は、朝から現地集合で歩き始めました。最初は、みんな余裕な表情で歩き始めました。途中で休憩ポイントをはきみながら、着々と歩き続けました。歩いた距離が延びていくにつれて、みんなの顔からだんだんと笑顔が減っていき、口数も少なくなっていました。1日目は、無事に全員、目標の距離を歩きました。1日目の夜は大きな湯船で体を休め、足にサロンパスなどを貼って2日目に備えました。

キャンプ2日目、前日の疲れが少し残った状態からのスタートでした。次の休憩ポイントに後どのくらいでたどり着けるのかをずっと考えながらただひたすらに歩き続けました。残念ながらこの2日目で2人のリタイアが出てしまいましたが、また3日目には歩くためにこの日の夜も、足にサロンパスを貼って眠りました。

キャンプ3日目、雨が降っていましたが、最後の1日ということで、みんな気合の入ったスタートを切りました。雨も次第にやんで、最後の休憩ポイントからは走っていく人もいました。ゴールテープとともに写真を撮って、1日を終わりました。

キャンプ4日目、おいしいご飯を食べてから、表彰式をしました。完歩できた人もできなかった人も、色々なことを感じ、得られ、改めて友達と支えあうことの重要さを知ることができたキャンプだったと思います。

モクモクファーム 食農体験キャンプ

王 栄喜

SIS9年

このキャンプはタイトルどおり、食農体験ができるキャンプです。場所は三重県伊賀市です。バスに約1時間半乗って目的地に着きます。日数は2泊3日とほかのキャンプと比べ短めなので忙しいあなたにもお勧めです。費用は3万1000円と少し高めですがそれに見合った体験ができるのでほかのキャンプと比べずごくお得な

キャンプです。引率の先生は志垣満理先生と山田優介先生とすごく優しい先生が引率してくれます。このキャンプでは普段は体験できないような体験ができます。



このキャンプは1日目から大変貴重な体験ができます。最初の作業はネーム作りです丸い木を使いそこに名前やあだ名などを書いてバッジみたいにして胸につけてすごします。その後トマト狩りをします。この農場には10種類ものトマトがあり一人一人が自分のトマトと次の日に使うピザに使うトマトを収穫します。トマトの狩りが終わると次は牧場体験です。そこで牛に餌をあげる準備をしたり、乳搾りなどすばらしい体験ができます。またキャンプに来てこの農場にこないとわからない裏事情や日ごろ見れない場所などに行けて1日目からすばらしい経験ができます。一日目から時間を忘れるほど楽しい時間が過ぎて、晩御飯はいつもよりおいしく感じられます。晩御飯のあとは温泉で露天風呂などがあり、その日の疲れを癒してくれます。お風呂が終わると次はそれぞれのコテージに向かいます。この部屋を見ると全員驚き感動します。それは想像を遥かにこえる部屋の大きさときれいさ、そしてこれから一緒に寝泊りする友達とたくさんの思い出を作ってくれます。次の日もすごくすっきりとした気分で起きることができます。

2日目は朝からしいたけの農場体験です。そこではしいたけのとり方やしいたけの栽培方法など詳しく教えてくれます。朝ご飯はバイキングです。豊富な種類とおいしい現地産のご飯を食べることができます。この日は30分ほどバスに乗ってでかけます。そこではにんにくの芯抜きや干す作業をします。この作業が終わると2日目の昼ごはん作りをします。昼ごはんはピザ作りです。ピザは生地を練ってトッピングをして鎌で焼きますこれらの作業は全部自分でするので本場のピザよりもおいしいです。そのあとは休憩タイムでハンモックでゆっくり休むことができます。休憩が終わると焼き板の準備です。これは木の板を焦がしブラシで磨くことで木の本来の木目が際立ち世界でひとつの焼き板ができあがります。そしてこの作業が終わるとバスで帰り、お待ちかねの晩御飯タイムです。この日はキャンプの代名詞のBBQです。疲れたあとの肉は絶品です。この日の夜も同じコテージに泊まります。2日目の夜が一番楽しいです。この日の夜は枕投げやみんなでしゃべったりしてこの日の思い出をより深く刻んでいきます。

次の日の朝もバイキングです。前日よりメニューが変わりますが、品数は変わらず前日と同様すごくおいしいです。この日は昼までフリータイムで園内を散策します。このときに日ごろお世話になっている家族などにおみやげが買えます。そして帰りのバスはみんなでトランプをしたり、キャンプを振り返ったりして最後の時を楽しみます。このキャンプを振り返るとこの夏一番の思い出になるに違いありません。この学校の夏にしかできない貴重な体験と一生思い出に残る体験になり必ずこのキャンプでよかったですと思います。僕たちこのキャンプに行ったメンバー全員でオススメです。最高の夏の思い出を作りたい人は是非このキャンプに来てください。

千里ヒストリア



村嶋里音
SIS10年

京都や奈良には多くの歴史的な名所がありますが、とても近いので訪れる機会があまりなかったと思います。今までテレビやパソコンなどでしか見ることができなかった様々な歴史的建造物を自分の目で見て確かめることができ、新しい気づきが沢山ありました。また、日本の歴史に対して興味が薄い部分もあったけれど、実際に足を運んで色々な人に詳しい説明をしていただいたこともあり、興味深くと感じました。そのため、千里ヒストリアでの体験を通して、画面越しではなく実際に現地に行くことに意味があると思いました。もちろん、インターネットを使って歴史について調べると膨大な量の資料や情報を目にできますが、それはきっとただ知識欲を満たすだけで、記憶に残る大切なものにはなり得ないのだと思います。現地に行くことと肌で歴史を感じることができるため、忘れることはありません。歴史というものは無理やり頭に詰め込むものではなく、心に刻んでおくものではないでしょうか。

岩崎有紗
SIS8年

今年度のテーマは「日本の古都を知る!奈良・京都」でしたが、このキャンプに参加した理由は皆違っていたため、それぞれのニーズに応えられるよう早い段階からミーティングを重ね、皆が楽しむことができ、かつ多くのことを学べる旅行を1から作り上げてゆきました。おかげでキャンプは大成功、大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。それぞれの胸に、それぞれの思い出が刻まれたことと思います。更に今年は特別に、現在国際基督教大学1年で、SIS卒業生の村田啓輔さんも参加され、私達中学生及び高校生では知り得ないような事を優しく、そして丁寧に教えて頂きました。いつもの的確なアドバイスを頂いた中村先生、増尾先生、そして貴重なお時間を割いて来て下さった村田さんにも感謝したいと思います。ありがとうございました。村田さん、来年も是非参加してください!

このキャンプは決して「歴史学習一辺倒」のキャンプではありません。ですが、せっかくこの歴史的建造物の宝庫、関西に住んでいるのだからそこを訪れてみない手は無い!さあ、その肌で歴史を感じてみようではありませんか。

Summer Camp

心の旅 高野山を訪ねて

田中沙宝、青木宗一郎

SIS12年

難波駅から南海電車に乗りおおよそ1時間半、極楽橋という仏教モードな名の駅でケーブルに乗り継ぐこと5分、目的地である高野山駅に到着した。思った



より近かったがそこはしんとした静けさに満ちており、都会と比べて緑が多く空気も美味しかった。宿となる恵光院は純日本風な家屋に閑静な中庭があり、落ち着いて過ごせそうな場所だった。嬉しくなり写真を撮った後は先生に携帯を預けた。そう、このキャンプでは4日間、一切電子機器を使ってはいけないのである。その後は、早速数珠作りを行った。一粒一粒願いを込めてネーム入りマイ数珠を作ることができた。

しばし休憩の後、今度は阿字観といい、僧侶が気持ちを落ち着かせるために行う真言宗の瞑想を体験した。真言とは「仏の真実の言葉」を意味するらしい。気がつくとも何も考えず無の境地で、ひたすら瞑想に耽っている自分がいた。生まれて初めて食べる野菜や果物のみを使った精進料理に舌鼓を打った後は、お坊さんと普段の修行や日課のことからプライベートまで様々な話題について語り合った。

二日目の早朝、眠い眼をこすりながら護摩祈祷に参加した。これは燃え上がる炎の前でお坊さんが、願い事などが書かれた護摩木を焚きお経を読むのである。心が落ち着いた所で、今度は写経体験をしたのだが、最後の願意の欄に恋愛成就と書いてしまったばかりに、後でそれを読んだお坊さんにかからかわれるという恥ずかしい思いをした。(以上 青木宗一郎)

朝からざあざあ雨の降り注いだ3日目。悪天候のせいで、私達は散策や街巡りを諦め、宿坊内に留まることを余儀無くされた。だが落胆も束の間、一緒に遊ぼうと誘われた友達と部屋でお喋りやカードゲームを楽しみ、阿字観道場を拝借し「だるまさんが転んだ」「花一匁」といった懐かしい遊びで盛り上がった。皆久しぶりに童心に返ったようで、笑顔が飛び交った。

夜は涼しい風の吹く中、奥之院へ向かった。道の両側には幾千ものお墓が立ち並び、暗くなるにつれ薄気味悪く感じたものだが、案内してくださったお坊さんの語らいに耳を傾け、歴史上の人物に思いを巡らせた。橙色の灯火に包まれた奥之院は風情があり、祀られる仏様に手を合わせた。夏の夜らしく皆で一緒に花火を楽しんだが、真っ暗な帰り道での肝試しは不気味で、あまりの恐ろしさに気が気でなかった。

最終日は主に自由行動であった。住職の興味深い法話を拝聴した後、お土産の焼き餅を片手に、すっかり晴れた高野山の街を歩きまわった。帰りたくない気持ちを抑え、ご住職をはじめ、お世話になった皆さんに感謝の意を表し、私達は高野山駅へ向かった。

滞在中、私は恵光院の風流で趣のある中庭を眺め、先人達の暮らしに思いを馳せた。彼らも湯呑を片手に美しい草木を眺め、雑談に花を咲かせていたのだろうか。そしてふと思った。私達現

代人には思いを巡らすことや、心を空にすることの大切さが分かっていないのではないかと。

「心の旅」で体験してみしてほしい。ネット環境のない、普段とは一味違った生活を。思いの外気が楽で、周りとも自分とも、しっかり向き合えるはずだ。(田中沙宝)

チャレンジキャンプ

的場健吾、田中祐太郎

SIS10年 SIS9年

日本海や日本列島の峰々に見守られ、気づけば北アルプスの大自然の真ただ中。参加した10人一人ひとりがそれぞれの挑戦に取り組んだ5日間。目の前にある数々の困難や達成に心を揺さぶられた。



『今この気持ち』に気づく。「やってみる、自分で。」こう言われて最初の夜を先行きの見えないまま過ごし、翌朝からすぐチャレンジに飛び込んだ。

ロッククライミング。そびえ立つ絶壁にしがみつき、こだわりのコースを何度も勝負する。歓喜と無念の入り混じる一日だった。

約20kgの荷物を背負い白馬岳の頂上を目指す中、雨は容赦なく降り続けた。登頂を断念し8時間の往復を終えた後、悔しい気持ちを抑え現実を認めた夜は私たちの最初のターニングポイントだった。

登山が終わって挑戦は終わったかのように見えた。しかし予定は変わり、次の日には「プロジェクト」が待っていた。4つの種目に挑戦した一日。大縄跳び、蜘蛛の巣くぐり、丸太の横断、壁登り。最も印象的な日がこの日だった。3つ目までの種目は建設的な振り返りを通じて全員が大切な何かを心に据えた。余裕、切迫、周りのstretch zoneを心得て望んだ最後の種目は4m近いまさらな壁を10人全員が越えるというチャレンジだった。一見不可能に見える挑戦。しかし全員でそれを成し遂げた私たちは感動の瞬間を経験した。

その日は全員がそれぞれのツェルトを張って自分だけの夜を過ごした。一人ひとりが今日経験したこと、昨日までの自分、明日からの人生を深く考えた。闇夜の森の中は孤独ながらも自分の存在が弥が上にも強調される。その中で感じたものは一生忘れられないと思いった。

Expanding our own boundaries. To try what you thought impossible. Through the five days spent on this camp, we all faced challenges throughout and had to strive constantly. Although it was incredibly tough physically and emotionally, it was an experience that we all enjoyed and took something from.

チャレンジとは？

「逃げないこと」「次のステップへ進めてくれるデバイス」「成長するために不可欠なもの」「新しい自分を誕生させること」「はじめの第一歩」「壁を乗り越えること」「全力を出さないと超えられない壁」「自分の能力をためられる」「自分を信じて前を向くこと」「良い気分であること」

SIS おおさかグローバル塾



米国コース

中村彩菜
SIS11年

大阪グローバル塾米国コースでは7月までの前半授業で留学前の準備講座が開かれました。この講座では日本やアメリカの文化を英語で学び、英語で日本についてのプレゼンテーションをするなど短期留学に備えました。

短期留学は7/29~8/10の間でアメリカ・カリフォルニア州に行きました。前半の1週間をチョコにある州立大学で、後半をサンフランシスコにある州立大学で過ごしました。留学中のプログラムの内容は大きく分けて4つに分かれています。1つは留学中多くの時間を占める州立大学でのレクチャーです。レクチャーではほぼ毎日行われ現地の教授の方々をお招きしました。内容はアメリカ文化のことから、グループ内で個人の強みをどのようにいかしていくかなど幅広いものでした。2つ目はSilicon Valleyでの企業訪問です。今年はGoogleの本社を見学したり、実際にSilicon Valleyで起業をした日本人留学生の方にお話を伺ったりなど、サンフランシスコに実際に行くからこそ学べるものがたくさんありました。3つ目はフィールドワークです。チョコでは市議会を訪問したり、現地の大学生と共にチームに分かれ、街の様々な場所に出されるお題にチームでチャレンジしていくグループワークをしました。このワークでグループ内での自分のあり方を経験を通し学ぶことができました。サンフランシスコではサンフランシスコという場所に沿った5つグループに分かれ、それぞれ現地の方にインタビューなどを行いました。私は留学前から関心があったfood & ecologyのグループに入り、食や環境への考え方が進んでいるサンフランシスコの人たちにインタビューをし、その結果からベジタリアンとサンフランシスコで問題になっている水不足の関係を分析しました。フィールドワークの結果は留学後にプレゼンテーション大会という形でグループごとに発表をしました。4つ目は観光です。チョコでは毎週開かれているマーケットに行き、現地の人の実際の生活に触れたり、日本から練習をしていったフラッシュモブを塾生40人で披露するなど、普段では体験をできないようなことができました。サンフランシスコではゴールデンゲートブリッジを自転車で行くなどアメリカならではの思い出も作ることができました。

大阪グローバル塾米国コースでは、大阪府が企画しているからこそ市議会またGoogle訪問や教授の方のレクチャーなど一般の短期留学ではできないことを経験することができました。また、関西に住む他の高校の友達ができただけでSIS内の活動だけでは得ることのできない考え方や視点など、いろいろなことに対しての視野がとて広くなったと感じています。そんな大阪グローバル塾米国コースに参加したからこそ得ることができたものを無駄にせず大切に将来に繋げていこうと思います。



英国コース

藤川実央
SIS12年

この夏、私は大阪府の主催する「おおさかグローバル塾英国留学コース」の第4期生として、イギリスに2週間の短期留学をしてきた。

はじめに訪れたロンドン芸術大学では、教授というよりアーティストと呼ぶほうが正しい先生からファッションの講義を受け、またある日には伊東博文が学んだというロンドン大学ではinterdisciplinarity(文系/理系の垣根を越えた学び)の重要性について学習し、次の日にはあの名高いオックスフォード大学で、イギリスの大学の中で最古といわれるその歴史を学んだり、その数日後にはリーズ大学でビジネスのワークショップを受けたり…というふうに学習が充実していたのはさることながら、イギリスの文化に触れる機会も十二分にあった。

女王エリザベス2世が週末に過ごす場所としても知られるウィンザー城を訪れた際には、あの赤い制服で知られるイギリス近衛兵の行進を見ることもできたし、三角貿易によって巨万の富を得たとされる大農園主の豪華絢爛な邸宅を見学した際には、その凝った調度品に驚くとともに、建物の構造から当時の奴隷文化を目の当たりにした。またレトロなフェリーに乗ってピーターラビット生誕の地とされる美しい湖水地方へ行き、アフタヌーンティーを楽しんだのも良い思い出だ。

全体を通してこの短期留学で印象的であったのは、想像以上にイギリス社会が多民族社会であったことだ。私が接した学生だけをとってもヨーロッパの近隣国出身の学生もいれば、中東からの学生やアメリカ出身の学生、タイ出身の学生など、学生の出身国は本当に様々で、非常に国際色豊かであった。また、これは学生に限らず街行く人々においても同じことが言え、「生粋のイギリス人」は思っていたよりも少なく、アラブ系やアフリカ系の人々の姿が目立っていた。加えてイギリスにいる間、このように自国が国際的であるという事実をイギリス人が非常に誇りに思っていることが感じられ、そのこともまた私の心に強く残っている。

このように、2週間という期間は留学としては短い、実際にイギリスへ行くことでしか得られない発見は数多くあった。そもそも、この「おおさかグローバル塾」は学生の長期留学支援からグローバル人材を育てることを目的としており、この短期留学は長期留学前の「下見」のような位置付けだ。興味があれば、理由はイギリスに行ってみたい、というのでも、他校の友達を作りたい、というのでもなんでもいいから気軽に参加してみたら良いと思う。想像以上にたくさんのものが得られることを保証する。

SIS トビタテ留学JAPANに6名参加

志垣満理

SIS国際交流センター, HFL科

トビタテ留学JAPANとは文部科学省が官民協働で行っている留学支援プログラムです。2014年に大学生向けにスタートし、高校生コースは今年が1期生ということで全国から300名の高校生が書類、面接審査を経て選ばれました。今年が初めてということで手探りの状態でしたがSISからは10年3名、11年3名、あわせて6名の生徒が応募、全員が審査を通過し夏休みに3週間から8週間の留学にとびたちました。行き先は、カナダ、アメリカ、台湾、目的も、語学(フランス語、中国語)、テニス、写真、バレエ、ビジネス等、SIS生らしくそれぞれが立てた留学計画に基づいて、充実した留学となったと思います。

参加した生徒の留学報告をご紹介します。

2期生の募集が冬には始まります。SGHのフィールドワークもいいですし、自分の可能性を広げるような留学にチャレンジしてくれることを期待しています。

■JURIAN KRINSKY CAMPS & PROGRAMS

林 巧馬(SIS11年)

この夏、僕はアメリカ合衆国ペンシルバニア州フィラデルフィアにあるJURIAN KRINSKY CAMPS & PROGRAMS(以下JKCP)のテニスプログラムに参加してきました。

僕は小さい頃から父の影響でテニスをしていました。そしてこれ十数年間、テニススクールやクラブ活動でなんとなく続けているというのが僕のテニス生活でした。テニスも英語もこのままでは僕の中で何も進歩せずに終わる。高校生活の中で最後のチャンスになるかもしれない今夏のテニス留学で、自分を見つける最高の機会にしたいと次第に強く考えるようになっていきました。

伊丹を出発して成田からシカゴ、そしてアメリカ国内線に乗り換えフィラデルフィアまで約3時間、やっとJKCPに着いたら出発からほぼ丸1日が経過していました。ほんとに遠かったです。(笑)

夏休みが始まってすぐに渡米したこともあり、当初は日本人を含む東洋人が僕だけという状況でした。そして世界中から集まった高校生達の英語以外の言語が飛び交う中、僕は素晴らしい環境の中に居るのだと実感していました。午前約3時間、午後は約4時間、毎日みっちり練習があり、正直トレーニング内容はとてもハードでした。しかし、せっかく手に入れたこのチャンスを無駄にはしまいと一生懸命トレーニングに励みました。色々な国の高校生とのスポーツを通しての交流は、僕にとってかけがえのない経験となりました。

僕は今回トビタテ留学JAPAN日本代表プログラム(高校生コース)という留学支援制度で奨学金をいただいて、JKCPに参加することが出来ました。少しだけ両親に恩返しが出来たかなと思っています。このトビタテ留学JAPANプログラムは、大学生の留学を支援するプログラムとして行われているものなのですが、今年は高校生コースが新たに始まり僕はその一期生として選ばれました。そして文部科学省に研修を受けに行き、外国では僕たちが国際交流の日本代表であることを常に自覚して行動するようと言われました。第一期生同士での交流を深め、将来きっとお互いがプラスになる仲間になれるようになって欲しいとお話でした。今後はその絆を大切にしていきたいと思っています。もちろんSOISの仲間との絆も僕は一生大切にしていきたいと思っていま

す。

このような素晴らしいチャンスとサポートを与えてくださった学校のカウンセリングセンターの方々や先生、両親に本当に感謝しています。

■モントリオールでの二か月間

久保健太郎(SIS11年)

今年の夏休み丸々使って、僕はカナダにあるケベック州のモントリオールという都市に今回留学させてもらいました。二か月という期間でしたが、とても短く感じ、また充実した二か月間でした。

ケベック州はカナダの中でも特別な州で、フランス語のみが公用語なのです。ですがモントリオールはカナダ第二の都市ということもあって、英語も普通に通じます。ここは古き良きフランスの文化とイギリスなどの英語圏の文化が混じっていて、独特な文化が今に至るまで育まれてきました。さらに、街にある建物がすごくレトロなものから現代風のものまでが混在していて、とても興味深かったです。また、ここに来て初めて世界中のメープルシロップのおよそ70パーセントがこのケベックで作られているということを知り、驚きを隠せませんでした。

そんなケベック州で僕は語学学校に平日毎日通う傍ら、土日などにはホームステイ先から外に出て、モントリオールはもとよりカナダ観光をしていました。ある日はモントリオールで有名な展望スポットに散歩がてら歩きに行ったり、ある日は学校のプログラムでナイアガラの滝とトロントに行く一泊二日のツアーに行ったりと、なかなか僕はこのカナダでの生活を満喫していたと思います。

学校外の生活を満喫していたのは勿論ですが、学校内での生活も楽しんでいました。学校ではフランス語と英語の授業を1:1の割合で取り、その授業の中には取れるいい授業が無かったので、ビジネス英語クラスという自分に今全く関係無い授業を取ったり、英語での効果的な喋り方を学ぶ授業などを取ったりしました。学校内には様々な国から来た人々で溢れていて、特に中南米から留学しに来ている人が多かったので、学校内では主に英語、フランス語、スペイン語が飛び交っていました。そして、フレンドリーな方が多くて年齢層も12歳から60歳までと幅広かったので、ここにいる人たちとかかわっていて面白くないと感じることはありませんでした。そして最後にクラスのみなどと写真を撮っていたとき、「これでモントリオールでの生活も終わるのか」と思い、すごく悲しくて寂しい気持ちに苛まれました。

このモントリオールでの二か月間は僕の人生で掛け替えのない濃密な時間でした。これから直面するであろう課題や問題に対してもこの経験から学んだことを糧に、果敢に挑むよう最大限努力していきたいと思っています。

■NYへバレエ留学

中山文花(SIS11年)

私はこの夏、トビタテ生として1ヶ月間NYへバレエ留学で行きました。初めてのNYで、タイムズスクエアへ行った時はそのスケールの大きさや人の多さ、賑やかさにとても圧倒され、ああ今自分はNYにいるんだと感じた時、感動しました。なぜならいつかNYに行ってみたくて3、4年前ぐらいからずっと思い続けていたからです。またバレエメインでの留学は初めてで少し不安もありましたが、最終日2日間は同じクラスの子達と踊ったパフォーマンスも成功し、さらに毎週休日はガイドブック片手に、寮の友達とNYの定

番の観光地へもほとんど行くことができ、とても充実した1ヶ月間を過ごせました。

しかしそう言えるような留学ができたのは留学へ行く前に取り組んだ事前課題のおかげだと思います。この事前課題では、留学によってどんな自分になりたいか、その理想の自分になるためには留学中にどんなことをしたら良いかを5つ、さらに具体的にチャレンジしてみたいことを50個も書き出すものでした。ちょうど春学期も末でテストや課題でてんやわんやな時期にそんな課題まで出て内心、ひえーって思っていました。しかしちゃんと取り組んで良かったと留学中、強く感じました。なぜなら、留学をするといつもと違う環境に身を置くので、もちろんそこにいるだけで自然と言語のスキルアップや友達が増えます。でもその環境の影響だけでとどまらず、さらに自身を成長させられるかどうかは自分次第です。そして留学後の理想の自分とそのための具体的な行動を書いた紙が、留学中に自分がより成長するために必要な一歩を踏み出すことを後押ししてくれるからです。私自身、留学中にその事前課題を何回も見直し励まされ、より成長でき以前よりも自分に自信を持てるようになりました。

だから皆さんも留学に行く時は「留学後の理想の自分」、そして「それを実現するための具体的な行動」を考えて紙に書き出してみてください。きっとその紙がより留学で皆さんを成長させ、その留学を実りあるものにしてくれるはずですよ(´)

最後になりましたがこのような素晴らしい機会を与えて下さったトビタテ留学JAPANの方々、両親、そしてサポートして下さいました志垣先生、ありがとうございました。

■6週間の中国語研修

秋田 穂子 (SIS10年)

私はトビタテ高校生に選ばれ、今年の夏休みに台湾の淡江大学へ6週間の中国語研修に行った。トビタテでよかったことが3つある。

1つ目は留学費用がほとんど支給される為、長い期間留学できることだ。SISは日本の普通の学校よりも夏休み開始が早く、日本人のいないプログラムに参加することができ、日本語以外を積極

的に話すことができる。留学先は台湾だったが、参加者はメキシコ人やアメリカ人、フィリピン人、スイス人等で、寮での日常会話は英語だった。彼らはとても優しく、私を妹のように接してくれ、私の拙い英語を一生懸命聞いてくれた。彼らの日々のテンションはSIS生以上。毎日勉強し、遊んでいつも寝不足ではしゃいでいた。親の目がない寮は毎日がパラダイスで楽しかった。3人の日本人とは大親友になり、今でもSNSでやりとりしている。1人は今台湾に大学留学で独り暮らしをしている。来年遊びに行きたい。個性豊かな沢山の人に出会うことができ、毎日スペイン語をスペイン人から習ったり、私が日本語を教えてあげたりと、様々な文化を学んだ。一方、8月中旬から始まった淡江大学の3週間プログラム参加者は9割が日本人で、寮で日本語だけが飛び交っていた。そのプログラムに参加のタイ人までも日本語で会話している姿を見て、私は本当に6週間のプログラムに参加してよかったと思う。日本人は中国語、英語が話せない上、話そうともしないで、部屋に籠っていた。私は6週間プログラムに申し込む時、日本人は全くいないと言われ現地に着くまでは本当に不安だったが、改めて日本人がいない世界に挑戦することの良さがよくわかった。

2つ目は、国の代表ということで、自覚を持って毎日緊張感を持って過ごせ、よく考えてから行動できること。メキシコ人や寮のほとんどの人は毎週末クラブに行っていた。私はお酒を飲みたくなかった為行かなかった。

3つ目は、事前や事後学習があり、自分の目標をしっかりと立てて留学に望むことができること。語学研修だけでなく、そこに行き何をしたのか明確にすることで、充実した日々を送ることができた。上海駐在でマンゴーにとりつかれた私は毎日マンゴーやドラゴンフルーツ、グアバなど食べて感想をまとめた。現地の中国語の先生のバイクに乗せて果物屋へ連れて行ってもらったり、夜市に行った時に食べた。台湾で初めて見て一番美味しかったのは釈迦頭。

私はトビタテで世界を身近に感じる充実した日々を過ごせた。中国語の中嶋先生に発音がよくなったと言われ、うれしい。皆さんも目的を持ってトビタテに申し込んで欲しい。世界にトビタテ！

SIS 合同茶会に参加して

谷 優佳

SIS12年

梅雨も明け、本格的な夏を迎えた7月下旬、私たちは裏千家学校茶道合同茶会にSISの代表として参加させて頂きました。私たちはこの日のために練習を積み重ねてきました。一つ一つの所作を確認しながら、お点前のお稽古に励んできました。

当日、会場に着くと、まずは他校のお点前のお手伝いをさせて頂きました。お客様にお菓子やお茶をお運びしたり、お茶碗を下げたりするのですが、緊張して礼の順番やお茶碗の下げ方を間違えてしまい、ご指摘頂きました。注意を受けた時に、なぜそうしたほうが良いのか理由も一緒に教えていただき、とても勉強になりました。

お手伝いの次は、私のお点前の番でした。私は大勢の人の前でお点前をするのが初めてだったので、緊張のあまり礼を忘れたり、余計な動きをしたりと、練習ではできていた事を間

違えてしまうこともありましたが、間違えることで、いかにお点前の作法に無駄がなく、お客様への思いやりが込められているのかを改めて認識することができました。

今回、この合同茶会という場でお点前をさせて頂き、茶道という日本文化の素晴らしさを再認識する事ができました。間違えてしまう事も多く、納得のいくお点前をする事ができずに、自分の未熟さを痛感させられましたが、とてもいい経験になったと思います。こういう機会を頂けたことをありがたく思うと同時に、これからも稽古に励み、精進していきたいと思っています。



SIS 教育と平和18

「平和」のためのリレー

野島大輔

SIS社会科

一平和とは、ノーベル賞を取るような少数の偉人・聖人が献身的に分け与えてくれるものではなく、無数の人々の地道で小さな取り組みが世代を超えて、長い時間をかけて創り上げるもの—

これまで、高等部11-12年生対象の「平和学入門」「平和学特講」の授業風景を中心に此稿を書いてきましたが、今回は中等部9年生「基礎社会3」の、ディベートのクラスの様子からお伝えします。

「人類は、いつかは戦争をなくすことができる」Yes:No=1:9

「戦争を減らすことは可能である」Yes:No=8:2

「今の中学生の世代が生きる間に、日本は戦争を経験する」

Yes:No=7:3

(*もしも戦争になるとしたら、「日本の方から戦争をする」:「日本は巻き込まれる」=2:8)

オマケの質問「戦争になったらどうするか?」…「逃げる」:「その他」=8:2(*そう簡単に逃げられなくなることは、どうか覚えていてくださいね)

この人数比は厳密なものではなく、各教室での全員への問いかけに対して手を上げてもらい、見て取れる範囲のもので、年度によっても多少違ってきます。けれども、ここ数年での違いは、戦争とは遠くの出来事ではなく、身近にありうるもの、または実際に迫りくるかもしれないもの、という切実感が、生徒たちの間に確かに見られることです。小生の上の問いに対し、Yes:Noのどちらかに手を上げるときに彼らの表情は、大先輩たちよりもかなり真剣です。国内での平和憲法の改正問題やいわゆる「安保法制」の論議を毎日のように耳にするからでしょうか。世界で毎日のように報じられるテロ事件や武力紛争のことからでしょうか。あるいは、児童虐待や学校でのいじめ・暴力事件、鉄道自殺や殺人事件が後を絶たない社会に住んでいるという、実際の肌感覚からでしょうか。2015年度のGPI(Global Peace Index=近隣国との関係の良好さ、国内の治安や犯罪の少なさ、軍備や兵器貿易の割合の少なさ、など約20項目の統計から算出され、毎年発表される)は162カ国中8位と依然かなり上位ながら、最高位の3位から、日本は毎年ズルズルと順位を落としてきています(Vision of HumanityのHPから。http://www.visionofhumanity.org/#/page/contact)。

TEDのプレゼンテーションにも登場したピンカー教授(ハーバード大学、心理学)の近著『暴力の人類史』(青土社 2015年)によりますと、数千年~数百年の長い目で見ると、世界全体では、人類は野蛮を克服し、残虐性を少しずつ減じつつあって、今が人類

史上もつとも平和な時代なのだそうです(かなり意外に思えるかもしれませんが…)。少なくとも教授が示すデータの範囲では、部族対立、魔女狩り、奴隷制、拷問、死刑、少数者への弾圧、専制政治などは時代とともに大きく減少してきており、国家間の戦争、テロや内戦すら、冷戦終結後は減少傾向にあるとされています。何よりここ数十年では、主要国間の戦い(第三次世界大戦)を人類は防げていることが、この世界観を裏付けています。

この変化にはもちろん、とても大勢の人々が、大変な苦勞の中、世代を超えてまるで「見えないリレー」をするかのように、世界の暴力を減らすため、平和の問題に現実的・实际的に関わってきたことが挙げられます。これまでの日本のような(?)「一国平和主義」でなく、これからの日本のような(?)「多数国間戦争主義」でもない、「多数国間平和主義」の樹立を少しずつ進めている政府は、北欧や太平洋地域を中心に、特に世界の中小国に多くあります。これらの国々の地道なリーダーシップは、その背景にある「地球市民」たちの動きと共に、近年では対人地雷禁止条約(1997)やクラスター爆弾禁止条約(2008)を成立させました。一昨年には、かつてはあまりに理想主義的で不可能、といわれた武器貿易条約(ATT)を成立させ、ただちに文民の殺傷に使用される可能性の高い兵器の取引が禁じられ、兵器の売買については原則として記録の公開が求められるようになりました。

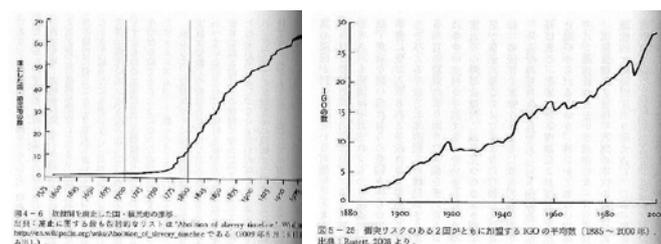


左<アジア太平洋は武器貿易の小さな地域。'14国際平和研究学会・全体会の資料から。> 右<朝鮮戦争時に武器貿易を茶化したポスター。英国軍事博物館の資料から。>

ただし、アメリカ、ロシア、中国などの大国は、これらの国際条約には、なかなか参加しようとはしません。いわゆる「安保法制」を採択した日本をはじめとする東アジア諸国も、この流れに逆らうように、本格的な軍拡競争モードに突入中です。

人類史の上での教育の分野での大きな進展として、ユネスコの国際教育の勧告(1974)では、特定の国家や民族のためでなく、世界共通の価値に基づく教育が各国で展開されることが求められるようになりました。その流れは「軍縮教育」(1980年代)、「軍縮・不拡散教育」(2000年代)へと受け継がれています。しかし、教育への統制も東アジア諸国内でさらに進められています。本稿の執筆現在、各国で教科書の統制が強化され、日本政府は「世界記憶遺産」の資料の登録への不満から、ユネスコの分担金の支払い拒否を、と論じ始めています(1980年代、アメリカが同様に「政治化」を理由に、ユネスコからの脱退で機構を揺さぶろうとしました)。

(次ページ★に続く)



左<奴隷制を廃止した国・植民地の数> 右<衝突リスクのある2国が共に加盟する国際機構の平均数>…『暴力の人類史』より

SIS 放射光(SR)の話

物理

河野光彦

SIS理科



INTERNATIONAL
YEAR OF LIGHT
2015

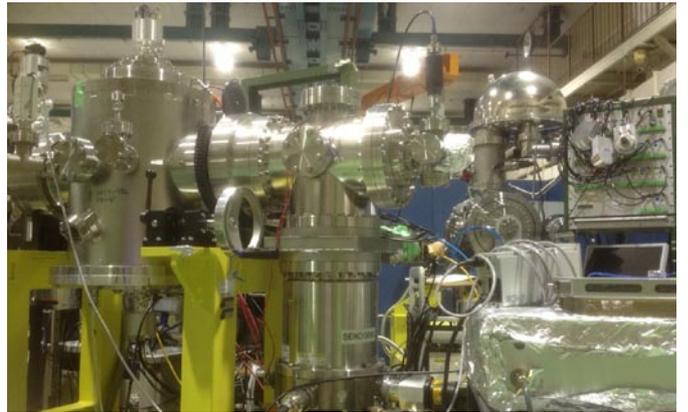
今年は国際光年です。前回のINTERCULTUREにレーザーを使った研究のことについて書きました。今回は、放射光(SR: Synchrotron Radiation)を使った実験について書こうと思います。

この秋9月21～25日にかけての週に愛知県岡崎市にある分子科学研究所というところで研究実験してきました。実験は極端紫外光研究施設(UVSOR)で行いました。そこは上に書いたSRが使える実験施設です。レーザー光は知っていても、このSRつまり放射光またはシンクロトロン放射というのは初めて聞く人が多いのではないのでしょうか。そこで少し説明をします。

光は身近に知っているといっても、光とは本当のところ何者なのかを真剣に考えたことはありますか。光は「粒」であり「波」であるといわれています。なんだか矛盾しているようなのですが、この2つの性質をあわせ持っているのです。想像がつきにくいですね。光はまっすぐ進みます。そして、さえぎるとそこで止まって先に進めなくなります。さえぎり方を変えることによって、水道の蛇口をひねって水の量を変えるように、光の強さを変えることもできます。また、鏡を使って反射させることもできます。これらは見方を変えると、光の粒が進んでいるのを止められたり、はね返されたりしていると考えられますね。実際、光を非常に弱くしてやると光の粒を数えることができます。

一方、光は波としての性質も持っています。波として考えると、屈折や反射などがうまく説明できます。水面にひろがる波を見ると、ゆれているのが伝わって進んでいるということがわかりますね。光も同じように何かかゆれているのです。このゆれる速さの違いが光の色の違いであると考えてください。たとえば、緑色の光は1秒間に約600兆回もゆれています。光には色があるというのは、虹を見たりプリズムに光を通したりしてみると良くわかると思います。そのときに現れる色は、その順番「紫青緑黄橙赤」にそれぞれゆれる速さが違って、紫に近くなるほど速く、赤に近くなるほど遅くゆれています。

さて、光をプリズムなどで分けたとき、「紫青緑黄橙赤」色の光に分かれます。目に見える光はこれだけですが、それ以外にも光があるのです。目に見えないだけで紫の外側に紫外線という光が、赤の外側に赤外線という光があります。紫外線はゆれる速さがとても速いですが、もっと速くゆれている光もあります。それがエックス線(X-ray)です。健康診断でレントゲン写真を撮りますね。あれは、体の中でも通って行くことのできるX線という光をあてて写真を撮っているのです。



UVSOR BL6U

なぜ、こんな話を長々と書いているかというと、レーザーとSRの違いを説明するためです。レーザー光はとても明るくきれいな光ですが、特別な場合を除いてある特定の色の光しか出すことができません。ところが、SRはX線から赤外線まで途切れなく全ての色の光を作り出すことができるのです。特にX線の強い光が必要なときは、SRに頼るほかはありません。最近の科学技術ではX線自由電子レーザーが使えるようになってきていますが、まだ広く利用できるレベルに達していません。

SRの原理を少しだけ説明します。みなさんが日々使っている電気も実は「電子」という粒からできています。電流とはこの電子の流れのことなのです。銅線の中を流れている電子という粒を取り出して、真空中に飛ばし流すことができます。この電子が非常に速く飛ぶとき、とても面白い現象が起きるのです。電子がほぼ光の速さで飛ぶと、その電子を見ようとするときは電子の飛ぶ先の真正面からでないと感じることができません。通り過ぎる横にいても電子を感じることはできません。そして、その電子の飛ぶ方向が曲げられるとき、もともと飛んでいた先の方向に光が発せられます。この光がSRとよばれるものなのです。

話が長くなってしまいました。UVSORで行った実験内容はいつかまた説明することにしますが、簡単に言うと、つまり今回の実験はこのSRによってできた強いX線を使って実験を行ったということです。



UVSOR Activity Report 2013

(★前ページの続き)

1930年代、世界平和のため理事国として活躍していた国際連盟を日本は脱退し、そこから世界からの孤立の道を歩みました。事情はどうあれ、現代の日本は、諸大国と、中小国らと、世界のどちらの動きに与していくのでしょうか。あるいは、どちらでもない道を創造できるのでしょうか。

SOISの生徒たち若い世代は、この世界の中で、どんな活躍を見せるのでしょうか。地道で小さな取り組みですが、彼らの真剣な面持ちに応えられるよう、先の世代から彼らの世代にリレーすべきものを、確実に手渡していきたいと思います。

SIS NIE (Newspaper in Education)

基礎社会3

増尾美恵子

SIS社会科

9年生の基礎社会3は今年度から特に秋学期には授業編成がわかり、多種多様に公民分野を学ぶということになりました。そこで例年、9年生のNIEの授業では「新聞スクラップコンクール」(全国新聞教育研究協議会・文部科学省後援)に応募をするということを目指し新聞力を高めるノート作成に重点をおいてきましたが、今年はより変化にとんだ内容になっております。春学期は各クラスで週1回はNIEの授業があり、前半は新聞を課題にしてのプレゼンテーションをいたしました。後半からは、11月に締め切りのスクラップコンクールに向けてのノート制作となりました。

とにかく、NIE(教育に新聞を!)は新聞を読むことから始まる授業です。本来の目的は今の世界を広く知ることです。世界では、日々、様々な出来事が起こっていて新聞にはさまざまな情報がリアルタイムにあふれています。一つの出来事・情報が様変わりしてゆく過程も詳細に書かれていたりもします。まだ9年生には難しいかもしれませんが、その情報から様々な学びを自主的に行ってほしいと考えています。(9年生には9年生なりに「こんな記事が載っていたよ」「このできごとについてはこう思ったよ」など、自分自身で記憶に留めたい内容がたくさんあるはずだと思うからです)。各クラスには、夏休みにマイペースでのスクラップを課題といたしました。なにせ、生徒個々のがんばりがそのまま成果となり



ます。(サボればいくらでもさぼることができるという恐ろしいことに)しかし、例年、この授業で新聞を読みこなすコツを見つけ、大人顔負けの時事能力を持つまでに至るほどの成長を見せて



くれる生徒も多数出るという事実も紹介したいと思います。今を知ること、中学生でも大人でも大事なことです。まして、将来を期待できる千里国際の生徒ならばなおさらです。

毎年、コンクールの結果は9年生の卒業式にはお知らせできるかと思われず。どうか、今年も期待してください。なお、秋学期・冬学期とクラスは交代しますが、冬学期には新たな視点で時事能力の充実を測る所存です。

<生徒の感想>

- ①新聞を読むたびに知らないことが増えてゆく、それを知らべることが楽しい。
- ②自宅で取っている新聞以外のものをお小遣いで買ってまで読むようになった。
- ③内外の最近のニュースに、より注目するようになった。

<利点>

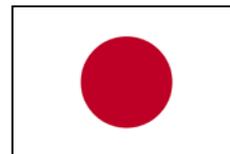
政治・経済・国際関係などの事柄に関する基本的な知識を、新聞を読むことで公民的スキルが身につく。特に世界情勢に敏感なまでの英知を持つ、わが校の生徒たちにはNIEはなくてはならない窓のようです。

Australian Students Homestay at SIS

Rodney Ray

SIS English

Twelve students from Sandgate District State High School, our sister school in Brisbane, Australia, visited Japan for sightseeing and intercultural experience in September. Accompanied by two teacher chaperones, they were in Japan for about two weeks, and visited us in Osaka for the last 3 days of their trip. They were only here for two nights, but thanks to the SIS students and families who graciously volunteered to host them, they were able to experience SIS education and Japanese home life. In return, our students got to learn a bit about Australian culture, develop international friendships, and represent Japan and our school to the world. Once again, many thanks to the SIS families who opened their hearts and houses for the exchange program. It was a great experience both for the SG and SIS students, and we hope that the SG students will be able to stay longer next time.



SIS 国際バカロレアの数学

馬場博史
SIS数学科

2013年からSISの(主に英語最上級レベルの)生徒が国際バカロレア資格を取得するためのコースを受講できるようになりました。私は2007年よりSIS高等部の選択科目として、英語の教科書を使って日本語で行う「国際バカロレア数学抜粋」という授業を開講しており、昨年11月に関西学院大学で開催された文部科学省委託「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究に関する研究成果報告会」での発表や、ここ数年8月に東京理科大学で開催されている「T³ (Teachers Teaching with Technology) Japan年会」での発表経験から、少し国際バカロレアの数学について、お話をさせていただきます。

国際バカロレアの概要

現在最も多くの国で採用されている初等・中等教育課程、国際バカロレアInternational Baccalaureate (IB)のうち、高等学校2~3年に提供されるものがDiploma Programme (DP)で、この最終試験に合格すれば世界2000校以上の大学への入学資格や受験資格が得られます。その授業と試験は、原則として英語、フランス語、スペイン語のいずれかで行う必要があります。OISはIB認定校であり、もちろん全て英語で授業が行われていて、SISのIB資格取得希望生徒は合同でこの授業を受けることができます。DPには次の6教科があります。

- 1: Studies in Language and Literature (母国語)
- 2: Language Acquisition (外国語)
- 3: Individuals and Societies (個人と社会)
- 4: Sciences (理科)
- 5: Mathematics (数学)
- 6: The Arts (芸術または他教科から選択)

各教科から1科目ずつ、3~4科目をHigher Level (HL)から選択し、残りをStandard Level (SL)から選択します。文部科学省は、日本のIBDP認定校を2018年までに200校に増やすという目標のために、2016年度から一部の科目を日本語でも実施できるように準備を進めていますが、すべてを日本語でできるわけではなく、少なくとも2科目以上を英語等で受講しなければなりません。

国際バカロレアの数学について

IBDP Mathematicsには次の4科目があり、1-3から必ずどれかを選択します。SLは150時間、HLは240時間です。

1. Mathematical Studies SL (主に数学を使わない文系向き)
2. Mathematics SL (主に数学を使う文系向き)
3. Mathematics HL (主に理系向き)
4. Further Mathematics HL (数学専攻志望者向き)

どの科目も試験80%、研究レポート20%で評価されます。OISでは1と2が多数で、3はごく少数、4の受講生はほとんどいません。日本語でも実施できるものとして2015年5月にMathematics SLとMathematics HLが加えられ、2015年7月にはMathematical Studies SLも加えられました。数学は他教科と比べて英語で学習することが容易だと思われるので、数学を英語で受講する生徒が他教科より多くなるのではないかと予想しています。

数学の教科書とグラフ電卓

IBDP Mathematicsの試験には、グラフ電卓Graphic Display Calculator (GDC)使用不可と使用可の2種類があります。GDC使

用不可の試験内容は日本のものとだいたい同じですが、使用可の試験にはGDCが必要です。教科書にも試験にも、代数計算で解けない問題や、自然現象・社会現象などの近似解を求めなければならない応用問題がしばしば見られます。従って、教員はGDCの使い方も指導できるようになっておく必要があります。

GDCにはプログラミング機能がついていますが、試験のときはプログラムを削除しておかなければなりません。また、代数計算機能Computer Algebra System (CAS)のついたものや、パソコンと同じキー配列(QWERTY Keyboards)を持ったものも試験では使えません。

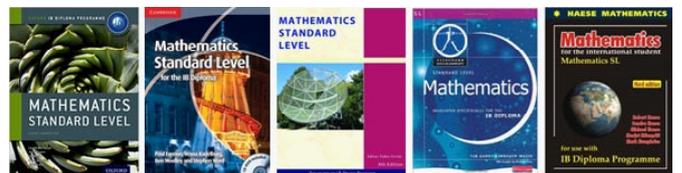
IBDP数学の教科書は5種類ほど出版されていますが、GDCの扱いについては次の表のようになっています。ひとつは全くGDCの画面はありませんが、他は全て登場しています。TI-84という機種が主流ですが、新機種のTI-Nspireを教科書本文に採用するものも出てきました。

GDC in Textbook

	CASIO 9860	CASIO CG20	TI-84	TI-Nspire
Oxford University Press	△	×	△	○
Cambridge University Press	△	×	△	×
IBID Press	×	×	○	×
Pearson Baccalaureate	×	×	○	×
Haese Mathematics	×	○	○	○

○Textbook △Appendix ×N/A (2015年7月現在)

Textbook for IB



Oxford Cambridge IBID Pearson Haese

問題例

日本の教科書ではあまり見られない問題をひとつ紹介してきます。一度解いてみてください。

Q)

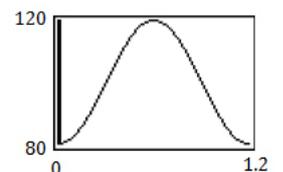
When a person is at rest, the blood pressure, P millimetres of mercury at any time t seconds can be approximately modelled by the equation

$$P(t) = -20\cos((5\pi/3)t) + 100, 0 \leq t$$

- (a) Determine the amplitude and period of P.
- (b) What is the maximum blood pressure reading that can be recorded for this person?
- (c) Sketch the graph of P(t), showing one full cycle.
- (d) Find the first two times when the pressure reaches a reading of 110 mmHg.

A)

- (a) 振幅は20mmHg
周期は $2\pi/(5\pi/3) = 6/5 = 1.2$ 秒
- (b) $100 + 20 = 120$ mmHg
- (c) 右図
- (d) $P = 110$ を代入して方程式を解くと、 $t = 2/5, 4/5$ 秒後



OIS

Congratulations Osaka International School Class of 2015



June 12, 2015

OIS CLASS OF 2015 Graduation Day, 12 June



Student Results Data



■ Class of 2015 Profile

Nineteen (19) seniors representing ten countries make up the class of 2015. All plan to pursue university studies after graduation.

Eight seniors claim English as their first language, eight Japanese, and one each for German, Urdu, and Korean.

■ IBDP Results (May 2015)

IB Diploma results for the class of 2015: 17 seniors pursued the IB Diploma, and 5 of those received Bilingual diplomas. The OIS IB Diploma pass rate was 88%, with the average IB Diploma score of 34. The highest point awarded to a candidate was 42.

Subject	No. of Students	Average	
		OIS	World
Subject Group 1			
English A HL	16	5.31	5.10
English A SL	1	6.00	5.23
Japanese A HL	4	6.00	6.02
Japanese A SL	3	6.67	6.02
Subject Group 2			
Japanese AB SL	2	6.00	4.95
Japanese B HL	4	6.75	6.14
Japanese B SL	2	6.00	5.07
Spanish Ab SL	7	5.29	5.07
Subject Group 3			
History Asia/Oce HL	7	5.00	5.12
History Asia/Oce SL	1	6.00	4.65
Economics HL	7	4.86	5.15
Economics SL	2	6.50	4.67
Subject Group 4			
Biology SL	11	4.55	4.25
Chemistry HL	5	3.60	4.50
Chemistry SL	2	4.50	4.05
Physics HL	1	7.00	4.69
Physics SL	3	5.33	4.19
Subject Group 5			
Mathematics HL	2	5.50	4.44
Mathematics SL	11	4.36	4.44
Math. Studies	5	4.00	4.49
Subject Group 6			
Vsl.Arts Opt. A HL	4	5.25	4.85
Vsl.Arts Opt. B HL	2	6.00	5.02
Vsl.Arts Opt. B SL	4	6.25	4.24

■ College Matriculations 2010-2015

USA

Babson College, Massachusetts
 Barnard College, Columbia
 Berklee College of Music
 Boston University
 California State Polytechnic University
 Carnegie Mellon
 Chapman University, California
 College of the Holy Cross, Massachusetts
 Duke University
 Earlham College, Indiana
 Elon University, North Carolina
 Marymount University, Virginia
 New England Conservatory of Music
 New York University
 Occidental College
 Ohio Northern University
 Orange Coast College
 Pacific University of Oregon
 Pitzer College, California
 Rensselaer Polytechnic Institute, NY
 San Diego State University
 State University of New York (SUNY) Stony Brook
 Temple University, Pennsylvania
 University of California, Berkeley
 University of California, Irvine
 University of California, Los Angeles
 University of Illinois
 University of La Verne
 University of Oregon
 University of Pennsylvania
 University of San Diego
 University of San Francisco
 University of Southern California
 University of the Pacific
 University of Utah
 Vanderbilt University, Tennessee
 Wesleyan University, Connecticut
 Whitman College, Washington

United Kingdom/Europe

Instituto Marangoni, Milano Fashion School
 Kingston University
 University College London, School of European Languages
 University of Bristol
 University of Nottingham
 University of Sheffield

Canada

McGill University
 University of British Columbia
 University of Toronto
 York University, Glendon

Japan

Aoyama University
 Doshisha University
 International Christian University
 Kwansai Gakuin University
 Osaka University
 Sophia University
 Waseda University

Graduation Requirements

English	4 credits
Humanities	3 credits
Sciences	3 credits
Mathematics	3 credits
Language B	3 credits
Music	1 credit
Art	1 credit
Technology	1 credit
Physical Education/Health	2 credits
Theory of Knowledge	1 credit
Electives	2 credits
Total:	24 credits

1 credit = 1 academic year of study

*All students must complete the extended essay as well as satisfy the CAS (Creativity, Action, Service) requirements of the IBDP.

SAT (2013-2015)

Subject	Students Tested	Average
Critical Reading	54	534
Mathematics	54	618
Writing	54	555
Subject – Physics	7	712
Subject – Biology (E)	3	673
Subject – Biology (M)	3	643
Subject - Chemistry	3	653
Subject – Math 1	4	715
Subject – Math 2	11	720
Subject – Literature	5	652
Subject – Japanese	6	786
Subject - Chinese	2	785

Asia/Australia

Chengdu University
 Hong Kong University of Science and Technology
 Monash University, Malaysia
 Lahore University of Management Sciences, Pakistan
 Pakistan Institute of Fashion Design
 Seoul National University College of Engineering
 University of Melbourne
 University of the Philippines

OIS World Champion in the 2015 RoboCup



Bill Kralovec
OIS Head

I would like to highlight the achievements of OIS grade 11 student, Kai Junge. He was crowned world champion this summer in the 2015 RoboCup held in Hefei, China. The annual international competition founded by the non-profit organization RoboCup, promotes robotics and AI (artificial intelligence) research by offering a publicly appealing, but formidable challenge. The stated goal of the project is to eventually (mid-21st century) field a team of robots to defeat the winner of the most recent World Cup. Quite a lofty goal! Kai participated in the RoboCup Junior which is aimed at primary and secondary students from ages 10-19. He leads the team robotics X that competes in one of three challenges, the Rescue Competition. The idea is to design, build and program a robot to go through an obstacle course. The difficulty is making a robot that can do multiple tasks, like in the picture above. Many hours of work with his partner Koki Asami, resulted in the championship. They qualified for the world championship by winning the Kyoto, Kansai and national competitions. This is his sixth time in the world competition and after several second place finishes, he broke through and won the championship. The key winning was to limit the possibility of errors by carefully getting rid of small bugs in the programming. Lots of research and

experimentation went into this winning formula. Robotics x easily defeated their Croatian rival this time, getting revenge for the 2013 defeat. Last year they lost to a Chinese team.

Kai was also awarded the best programming prize by RoboCup officials at the event in Hefei. He was also recognized this month by the Kyoto Prefecture division of culture and sports for his accomplishments. He will go to the World Robotic Olympiad in Doha, Qatar this November. Kai is a full IB diploma programme student and the son of Mr. Johann and Jun Junge. He has attended OIS since the end of fifth grade. We are very proud of his accomplishments and wish him luck in Qatar. He is one of the many talented students we are privileged to teach here at OIS.



ロボカップジュニア世界大会優勝

Student Reporter Mana
SIS10年

OIS11年生の開ユングさんが中国で開かれたロボカップジュニア世界大会のレスキューライン部門でみごと優勝を果たしました。開ユングさんは去年の大会で準優勝を果たしており、そのときにも取材に答えてくれています。(INTERCULTURE No.141)

今回は念願の優勝ということでより詳しく取材させていただきました！

①前回準優勝だった部門で優勝とのことですが、優勝が決まった時はどのように感じましたか？

ここ何回かの世界大会はずっと準優勝で、「あと一步」のところまで優勝を逃していました。なので、この世界大会では今まで以上に優勝することを目標として掲げていました。そして、今大会その目標を達成できたので嬉しい限りです。その上、優勝という結果と同時に競技の内容もとてもいいものだったので本当に最高でした。

この大会は3日間あり8回ロボットを8つの異なるコースで走らせます。去年は滑り込みで2位だったのですが、今回は確実に3日間とも2位との点差を開けつつ1位で終わることができました。なので、8回目の走行が終わった瞬間を思い出すと、飛び上がるような喜びというより「やりきった」満足感に満ちていました。

②今回のロボットはどのようなところを工夫して制作しましたか？

今回のロボットの最大の工夫点はロボットの総合力を上げること、バグ抜きをきっちりしたところですが、この競技の基本は黒線をしっかり沿って動くということですが、障害物競走のようにいくつもの項目をクリアしていかないと競技いい結果が出せません(例:ロボットが坂を上り下りする)。僕たちは総合力を上げること重点をおいたため、完璧ではなくても全体的に高いレベルで勝負することができました。

総合力を上げると同時に、もう一つの工夫点はバグ抜きをしっかりとこなしたことです。バグ抜きとはロボットがミスをする原因を様々な方法で解決していくことです。競技内で何度も起こる問題は解決しやすいのですが、難しいのは1000回中1回起こるようなミスです。しかし、このようなミスを放っておいたら本番で起こってしまい、失敗するのがロボット競技です。今年はこのようなミスを排除するため研究に多くの時間を費やし、世界大会でミスが出て、今までの研究からのデータや経験を元にすぐに解決することができました。

③今回はコンビである浅見さんがカナダに留学されたということで前回とは違う難しさがあったと思いますがチームワークはどうでしたか？

確かに、相方がカナダにいるという状況は協力という面では少し難がありました。しかし、僕たちはこの現状を逆手にとり、より良いチームワークを生む

ことができたと感じています。まず、ロボットを直接調整できるのは日本にいる僕なので、逆にロボットを直接調整せずに済む作業、(例:方法論の考案やプレゼンテーションシートの作成)は相方に頼むことができました。



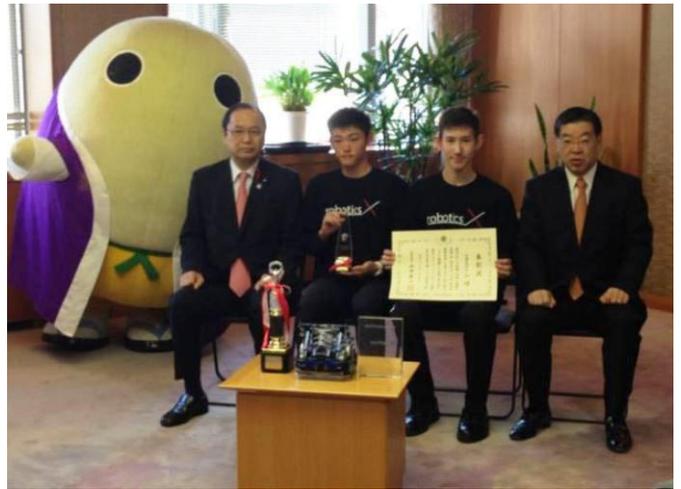
今回制作したロボットと優勝トロフィー

さらに、活動時間が短かったことから時間的なプレッシャーや緊張感があり、彼が帰国した後はお互い100%の力を出し合えたと思っています。

④全体を通して達成感を感じたところ、難しかったことを教えてください。

達成感:

最も達成感を感じられたところは競技の基礎である黒線を追う動き(ライントレース)が大会中とてもよかったことです。僕自身、こ



の競技に参加するのは6年目になりますが、ライントレースをするということは6年前から変わっていません。黒線を追って走るというのは一見簡単そうに見えてとても難しいことです。この大会は6年間の知識を全てつぎ込んで挑んだため、ライントレースの動きも過去最高でした。

難しかったところ:

今回何よりも難しかったところはルール変更への対応です。この大会は毎年少しづつルールが変化してくのですが、今年の2015年ルールは例年に比べてとても大きなルールの変更が何箇所もありました。しかし、3月末に行われた全国大会は昨年度の2014年ルールで競技が行われたので、4月から7月の間に新ルールに合わせるということが大変でした。ルール変更の箇所をクリアしていくと同時に、今まで取り組み研究してきた部分も残していくという対応に苦しみました。

⑤来年も大会に出場しますか？次はどんなロボットを作りたいですか？

今年の大会は自身の集大成として臨んだ大会でした。良いロボットを作るためには多大なる時間と努力が必要です。これからはIBの勉強で忙しくなりますし、大会に向けての練習時間は減ります。なのでこの大会に競技者として出場することはないと思います。しかし、大学に進学すれば、次は大学生としてよりレベルの高いところでロボット関係のことに携わっていきたいです。

優勝おめでとうございます！また大学での活躍に期待しています！

Nao's Eye

Art Exhibition



■ 学年だより Grade Reports

●SIS Grade 7 中等部1年生

宗正久志

SIS7年担任, 社会科

▼7年生の皆さんは、気が付けばもうSISに入学してほとんどの人が7カ月以上経ったんですね。そして、実はあと4カ月ちょっとで8年生です!! 早い!

▼僕自身、7年生の皆さんとは、HR、地理の授業、部活(トライアスロン)、そして臨海学習やSports Dayなどの行事を通してふれあい、楽しく、時に(色んな意味で)刺激的な毎日を過ごさせてもらっています。

▼みんな、ずいぶん、SISにも慣れたね!

春学期と比べると、里山家族やSports Dayなど学年で過ごす時間も増えて、学年全体でのつながりも深まって、たくさん友達もきたんじゃないかな?

▼そんな楽しい毎日が続いている中で、もう一度大切にしてもらいたいことがあります。

それは「5 Respect」です。

僕が見ている限り、皆さんは「自分を大切に」や「他人を大切に」はできてきているかなと思います。でも、「リーダーシップを大切に」「学習を大切に」「環境を大切に」はどうか?

▼クラスで物事を決める時、学年で何かをする時、リーダーシップをとれているかな?

毎日の宿題、授業での態度、しっかりできているかな?

携帯の使い方、ランチの過ごし方、登下校など、環境を考えているかな?

▼これを読んでくれたあなた(7年生でなくても)!

今、3分間、目をつぶって考えてみて。

できてるかな? できてないかな? もし、できてないことがあったら、どうしよう?

▼もしあなたが7年生より上級生だったら、是非、あなたのその姿勢を7年生に見せてほしいな。「これがかっこいいSISの先輩だよ」って背中をさ。

さて、僕ももう一度立ち止まって考えてみようっと。

●SIS Grade 8 中等部2年生

彦坂のぼる

SIS8年担任, 英語科

秋学期最大のイベントである運動会、今年は暑すぎず寒すぎず、曇り空の理想的な天候の中行われました。昨年は雨で半分以上流れてしまったので、8年生にとってはほぼ初めての運動会と言えたのかもしれない。楽しむことができたでしょうか。また、今年はハウスで年長の立場になり、この点でも初めてが重なりましたね。上手に周りをリードするのはなかなか難しいことだと感じたかもしれませんし、一方で仲間と連帯感を持つことができた人もいるかもしれません。大変だったな、と思う人は、次はどうしたらうまくいこうかということのを是非考えてほしいと思います。そして上手にリーダー役を務めることができた人も、何が成功の鍵だったのかということを考えてみましょう。(勉強と一緒に人生も復習は大切です。)一方で、今回はリーダーの役につかなかった人も多くいると思いますが、そんな時にもリーダーシップを大切にすることは大切なことですよ。ぜひ振り返りの時間を持ち、どんなふう

にリーダーシップを大切にすることができたか、また、どうしたらより良かったかを考えてみてください。これからのSOISの生活の中で、たくさんのチャンスが巡ってくると思います。積極的に参加して、今回学んだことを役立て、更に成長していってくれればと願っています。来年は学年毎のチームですね。誰がどんな役割を果たすか、今から楽しみです。

●SIS Grade 9 中等部3年生

山城亜希子

SIS9年担任, 国語科

只でさえ行事ごとで満載の秋学期。9年生にとっては、初の学年統一でのスポーツデイに、学年旅行も加わって、更に大変な学期です。どうなることかと気を揉んでいましたが、私にできる事がそうあるわけでもなく、最終的には開き直りの極致で、「彼らの出来る事を出来る範囲でやって貰おう、やる事に意義があるのよ」と思い、多くの部分を彼らの自主性に任せました。実の所、スポーツデイにしても学年旅行にしても、「上手いかわなくて元々、成功すれば上々」という気持ちだったのですが、自分たちで創り出し、作り上げ、その成果が目に見えた事が自信につながったのか、彼らの行動が非常に気持ちの良いものとなり、やる事なす事が、効率的なものへと変化していったのには、非常に驚きました。特に自発的に行動し、取り組んだ人々の成長ぶりはすばらしかったと思います。一生懸命やることは楽しい事で、様々な形できちんと報われるのだ、と体感した事を忘れずに、次のステージに進んで行って貰いたいと思います。頑張れ、9年生!

●SIS Grade 10 高等部1年生

The two main events for Grade 10 this trimester were Sports Day and the grade visit to KG campuses.

Rodney Ray

SIS 10-3 HR teacher, English

Since it was their second year for high school Sports Day, the students wanted, and were given, more independence for their preparations. There were some difficulties with performance organization and with t-shirt ordering; both were related to a lack of communication. Perhaps the main lesson to be learned this year is that when working on a major project, it's very important to communicate effectively and in a timely manner with all of the people involved in the project. Still, after a few complications, everything came together pretty well and we had a quite successful result in Sports Day, and it was very clear that students have developed over the last year in their ability to cooperate, to work together, and organize a major project.

Just a couple of days after Sports Day, grade 10 students went on a campus visit and orientation to several KGU campuses. This was after going through a process of selecting sample courses to join. Almost all student were able to join their first choice classes. This was a great opportunity for students to get a sense of what university-level courses will be like, a nice introduction to the KG campuses and facilities, and a valuable learning experience even for students who are thinking of en-

tering other universities. Many thanks to the Kwansei Gakuin family university campuses for opening so many sample lessons and for accommodating our students that day.

Looking ahead: grade 10 is already more than half over! As always happens once they enter high school, students are starting to feel that their school years are passing more and more quickly. I can tell you from my experience: that feeling just grows and grows as you get older! Now is the time to be continuing to research universities (you should already have started this!), researching possible careers, and starting to make decisions about your classes and schedule that will fit into future goals. Once you get into grade 11, you really should be getting quite focused in your studies. This coming winter break might be a very good chance to spend some time reflecting on your future path.

●SIS Grade 11 高等部2年生

間島啓司

SIS11年担任、理科

高校2年生の秋、大人気大人数のGr11にさらなる愉快的仲間が加わりました。

Class 1: 山本泰知くん

Class 2: 左織 徹くん、渡辺 彩由季さん

Class 3: 磯竹 仁成くん、太田 岳伸くん

Class 4: カトリッセ ハンナローラ 舞さん、坂田 拓斗くん

また、高校2年生の秋と言えば、10年生から留学していた仲間たちが帰ってくる時期でもありますね！今学期は6名の仲間が帰ってきました。さて、新しい仲間から帰ってきた仲間の人数を加えると今現在のSISGr11の人数は…95名！もうほとんど100名！なんじゃこら！LHRにRoom210で学年会をしてもはや全員が座れないほどの人気ぶり。でも多いからと言って決してぐちゃぐちゃになることなく、時には譲り合いながら、時には工夫しながら、一生懸命頑張っています。SIS High Schoolもいよいよ折り返し地点。どんどん進んでいきましょう！

そして行事ごとと言えば大忙しのGr11。スポーツデー・学年旅行のピックイベント2つにいよいよ進路の話が本格的に始まってきました。残念ながら10月上旬にこの記事を書いているのでスポーツデーの結果は分かりませんが、あれだけ作戦を練って、放課後残って練習して、素晴らしいポスターやT-シャツがあって、途中で発足した小道具委員も精力的に活動していたのですから…きっとスポーツデー当日は笑顔で終えていることでしょう！

さて、おそらくインターカルチャが発行されている時期ですから、今現在は進路の話が色々進んでいることかと思えます。各々一生懸命ながら色々苦しい思いをしていることかと思えます。ただ、悩んで当然、だって正解があるわけじゃないし高校生で考えられる将来って漠然としているはずですからきっと不安…。ただ、もう少し大人になった時に…本当に選択に差し迫られた時に…色々考えられるよう、授業だったり学年旅行のことだったり、「今できること」をもっと一生懸命にやっておきましょう。悩まないこともダメですが、悩み過ぎて何も手に付かなくなってしまうのがない。ん～難しい。そんなことを考えながらまた悩む…。将来の事を考えなければいけない進路だからこそ、悩んで、「今できること」！もっと意識して欲しいと思います！それは進路だけでなく必ず自分の人生のどこかで役に立つはずですから…。

●SIS Grade 12 高等部3年生

時間のとらえ方: Count Up or Count Down?

水口 香

SIS12年3組担任、英語科

ジェネーの法則によれば、人は年をとるにつれ時間の経過が早く感じられるようになるそうですが、17歳から18歳と微妙な年齢にかわりつつある12年生は、時間の経つのは早いと感じるのでしょうか、それとも現在進行形のことに忙しく時の流れを体感する間もないのでしょうか。とはいえ12年生は後5ヶ月で、卒業式という人生の節目を迎えます。SISに在籍した年数に関係なく、誰もが立ち止まって、SISでの生活を振り返り、自分がどのように過ごしてきたのかを思い返します。ここでの生活があったという間に過ぎたように感じる人もいれば、とても長い時間だったと感じる人もいます。時間について考える時、その長さに関係なく、自分なりに満足がいく生活ができていたかどうか、その質をみるのが大切です。もしSISに編入した時期が遅く、たくさん活動に参加できなかったとしても、与えられた環境の中で精一杯がんばってきたとすれば、短くても濃い生活を過ごせたこととなります。時間そのものは短くても心理的にはその時間以上のことができたことに喜びを感じるでしょう。逆に日々の課題や試験に追い立てられ、この生活からやっと解放されると感じる人にとっては長い辛抱の時間だったと思います。時間はどの人にも公平に過ぎるのに、人によって時間のとらえ方に違いが生まれるのは面白いですね。青春をすごしたSISがこれからの人生で意味のある時間であることを願います。

卒業式までの時間をcount downととらえるのではなく、卒業式までにできることを考え、充実した時間を過ごしてください。3月の卒業式で、皆からどのような感想が聞けるか今から楽しみにしています。

SIS8年生 福祉について学習

10月26日(月)に福祉の学習の一環として神戸市北区のしあわせの村にある社会福祉施設に行き、車イス体験、視覚障がい者体験、高齢者疑似体験の実習を行いました。また、翌週11月1日のLHRには、カウンセラーの肘岡先生から、一見して分かりにくい「見えない障がい」について聴覚障がいを中心にお話をいただきました。



車イス体験と視覚障がい者体験

Grade Reports

<Topics>

■ All School Production 2016

The All School Production (ASP) for this school year will be Grease. The original 1971 musical is set in 1959, in Chicago Illinois. It was a Broadway and West End hit for many years. Grease was made into a movie in 1978 starring John Travolta and Olivia Newton-John. The soundtrack features American rock and roll songs and deals with the working-class youth subculture of the time, "the greasers" hence the name. We will perform the school version, which is more suitable for teens and children, but maintains the immortal songs we know and love. Performances take place in the theatre February 4, 5 and 6, 2016.



PINK LADIES

Sandy – Niki Heimer
Rizzo – Yuki Sutton
Frenchy – Momone Ozawa/Ray Shindo
Marty – Sonia Ito/Minami Izumikawa
Jan – Kyla Barke/Malka Bobrove

OTHERS

Patty – Manaka Oyama
Cha-Cha – Mio Fujikawa/Kurumi Fujioto
Miss Lynch – Airi Wakasa/Shuri Kozu
Radio Voice – Karin Suenaga

T. BIRDS

Danny – Yuto Baba
Kenickie – Allen Morimoto
Doody – Tyus Sheriff/Kentaro Kubo
Roger – Justin Loew
Sonny – Takuma Nakahara/Sakyo Hara

Eugene – Keigo Mikawa

Vince Fontaine – Kosuke Yonenaga

Johnny Casino – Kai Akashi

Teen Angel – Kai Akashi

■ Cross-country Skiing Camp 日程変更

School Calendarで1/4-5に予定されていたTwo Schools Together Cross-country Skiing Campの日程と場所が変更になりました。冬学期始めに参加者募集を行う予定です。

日程: 2/12-13 (金土)

行先: 国立立山青少年自然の家 (富山県)

予算: 約10000円 (宿泊費、レンタルスキー・シューズ、食費、貸切バス代込み。必要ならウェア・手袋・ゴーグル・キャップセットレンタル3000円)

Nao's Eye

Art Exhibition



SIS秋学期編入生

入学広報センター

《国別》 アメリカ 9, イギリス 2, インド 1, オーストラリア 1, シンガポール 1, タイ 1, マレーシア 1, ロシア 1, 中国 1
合計 9ヶ国 18名

《学年別》 7年生 6, 9年生 3, 10年生 2, 11年生 7 合計 18名

電子版のみの配信になりました
We no longer provide hard copies

OIS "Educator" and SOIS "INTERCULTURE"

今学期より、関西学院千里国際キャンパス全体のWeb Page刷新を機会に、OISのNews Letter "Educator"およびSOISの広報誌"INTERCULTURE"は、紙媒体での発行を終了し、電子版のみの発行にさせていただきました。ご理解の程よろしくお願いたします。

Student Reporters 生徒記者編集後記

●意外なことです今回初めて記事に私の名前が載りました！普段インターカルチャー上では私は"student reporter A"なので。(Arisa Iwasaki)

●インターカルチャーもデジタル化ですね！！SOISで面白いニュースがあればinterculture.article@gmail.comまで連絡ください。(Mana Miyazaki)

★生徒記者をしてみたい人は声をかけてくださいね。

編集後記

▼これまで紙媒体で発行をするには、ページ数を4の倍数にしなければなりません。そのためにレイアウトを変えたり、記事の一部を削除・追加したり、次号に回したりするのですが、実はこれが大変な作業でした。その手間がなくなった分、さらに内容を充実させていきたいと思えます。(馬場博史) ▼新入生にとっては、はじめての長い夏休み。12年生にとっては、最後の夏休み。それぞれの夏休みを楽しんだのでしょうか。さてSGH最初の夏休みの今年、長年暮らしていたキャンベラに7人の11～12年生を連れて行って来ました(P.20)。生徒たちが多くの魅力ある人たちと出会った1週間。大・大・大成功でした。(河野光彦)

◆Editor: Hiroshi Baba (Math), Mitsuhiro Kono (Science) ◆Proofreaders: SIS AOPR Centre ◆Student Reporters: Mana Miyazaki (SIS10), Arisa Iwasaki (SIS8) ◆Photo: Nao Sadahisa (SIS10)



<SIS保護者会>

保護者の知らない

"不思議ウィーク"の世界

「えっ、その格好で行くの?」「だって、今日は不思議ウィークだから」「??」どこのご家庭でも一度はしたことがある会話ではないでしょうか?まさにSISあるあるですね。そんな保護者には?な不思議ウィークについて取材してみました。

まず、不思議ウィークとは?を主催者である中等部生徒会長にうかがってみました。学園祭やスポーツデーなどの行事前一週間を“不思議ウィーク”と銘打ち、皆で気持ちを高め、盛り上げていこう!とするものです。具体的には提示されたテーマに沿った服装で1日を過ごし、楽しめます。授業もその格好で受けることができます。先生方も参加されています。するかどうかは個人の自由で、決して強制ではありません。家にあるもので工夫して、お金をかけずに行ってほしいです。おもちゃの銃など小さい子が見て怖がるようなものは禁止です。気軽に楽しんでください!とのことでした。

子ども達にも話を聞いてみました。シニアデー「(友達と揃えて)眼鏡をかけた。」「カートや服をおばあちゃんに借りた。」、パジャマデー「ぬいぐるみを持参し、お風呂上がりのように首からタオルをかけた。」「寝起きのようにノーメイク。髪の毛はとかさず、あえてボサボサで。」「リラックスすぎて、いつもより眠いので早く帰りたい。」最後の意見は親としては「!?!」ですが、みんな色々工夫している様子です。毎回楽しみにしているらしく保護者の方も楽しそう、と協力してくれるようです。また、扮装していない子ども達にも話を聞くことができました。「見ているほうが面白い。」「他のテーマの日に参加するつもり。」「やるならしっかりやらないと中途半端は気付かれない。」「やる気満々だったけど、寝坊して準備していた服を忘れて参加できなかった。」という子もいました。

1週間を通してみると、している人、していない人は半々といった感じです。ウェスタンデーやパジャマデーのような手持ちの服や小物でアレンジしやすいテーマの日だけ参加、という人も多いようです。期間中は学内がなんだかワクワクした雰囲気にも包まれているので、たとえ扮装していなくても生徒たちは楽しい気分になって、イベントに向けて盛り上がっていきけるのでしょう。

「着て楽しんでよし、見て楽しんでよし。」子供たちを見ていると、気負わずに参加している印象を受けました。校長先生も「この学校らしい常識にとらわれない行事で大好きです。」とおっしゃっていて、まさにその通り!実にこの学校らしいユニークなイベントのひとつだと思います。最終日のテーマは「Universe」。このテーマがそのまま翌日のスポーツデーのテーマとなっ

つながっていきます。次回の不思議ウィークでは、ぜひお子さんに写真を撮ってきてもらってください。かなり楽しめますよ!

